執達吏職務細則

1280

114
A2696

執達吏職務細則目錄

第一章　總則　自第一條至第十七條
第二章　職務　自第十八條至第百十六條
第一節　送達　自第十八條至第三十九條
第一款　通則　自第十八條至第十九條
第二款　民事事件ニ關スル送達　自第二十條至第三十五條
第三款　他ノ裁判、事件ニ關スル送達　自第三十六條至第三十八條
第四款　裁判外ノ非訟事件ニ關スル送達　第三十九條
第二節　民事事件ニ付テノ强制執行　自第四十條至第九十六條
第一款　通則　自第四十條至第五十五條
第二款　有體動產ニ對スル强制執行　自第五十六條至第八十二條

大正十一年四月
大審院寄贈

第三款　債權ニ對スル强制執行　自第八十三條至第八十五條
第四款　不動產及ヒ船舶ニ對スル强制執行　自第八十六條至第八十九條
第五款　金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ强制執行　自第九十條至第九十一條
第六款　債務者ノ抵抗除去ニ關スル强制執行　第九十二條
第七款　證人勾引ニ關スル執行　第九十三條
第八款　假差押命令ノ執行　第九十四條
第九款　假處分命令ノ執行　第九十五條
第十款　裁判上ノ供託　第九十六條
第三節　刑事事件ノ執行其他ノ事務ニ關スル執行　自第九十七條至第百條
第一款　罰金、科料及ヒ過料ノ執行　第九十七條
第二款　賠償ノ執行　第九十八條
第三款　沒收物、沒收金及ヒ追徵金ノ徵收　第九十九條
第四款　裁判費用ノ徵收　第百條
第四節　行政裁判所其他特別裁判所ヨリ囑託ニ依ル强制執行　自第百一條至第百二條
第五節　動產、不動產ノ任意競賣　自第百三條至第百六條
第六節　辨濟提供　第百七條
第七節　破產財團ニ關スル競賣　第百八條
第八節　拒證書ノ作成　第百九條

第九節　供託ニ付テノ認證　第百十条

第十節　手數料　自第百十一條至第百十六條

執達吏職務細則

第一章　總則

第一條　執達吏其職務ヲ施行スルニ付テハ裁判所構成法民事訴訟法刑事訴訟法及ヒ執達吏規則ニ從フノ外尚ホ此細則ニ從フ可シ

第二條　執達吏ノ職務ヲ施行ス可キ管轄區ハ裁判所構成法第九十七條及ヒ執達吏規則第七條ノ規定ニ從フ可シ然レトモ執達吏ハ當事者ヨリ直接ニ委任ヲ受クルトキハ執達吏規則第七條ノ規定ニ拘ハラス直チニ其委任ニ應スル義務アリ

第三條　執達吏ハ官廳又ハ官吏ヨリ委任ヲ受

ケタルト人民ヨリ委任ヲ受ケタルトヲ問ハス執達吏規則第八條ノ規定ニ依リ其職務ノ施行ヨリ除斥セラル、コトアル可シ

第四條　執達吏委任ヲ受ケタル後法律上又ハ事實上ノ理由ニ因リ職務施行ニ差支ヲ生シタルトキハ執達吏規則第十二條ノ規定ニ從フ可シ

第五條　委任者又ハ裁判所書記ヨリ職務施行ニ關スル書類ヲ執達吏ニ渡シ口頭ヲ以テ委任シタルトキハ其委任ハ執達吏ヲシテ其職務ヲ施行セシムルニ十分ナル効力ヲ有ス

裁判所又ハ檢事局ヨリ命スル事件ニ付テハ裁判所書記ハ之ヲ執達吏ニ委任スル權アリトス裁判所書記ト執達吏トノ職務上交通ノ手續ハ裁判所書記職務章程中ニ之ヲ定ム

職權ヲ以テ命ス可キ事務ニ關スル委任又ハ裁判所書記ヲ經テ爲ス委任ノ授受方法ハ執達吏ノ所屬裁判所ニ於テ定ムル細則ニ從フ可キモノトス

委任ニ關スル書類ヲ書記課中ニ執達吏ノ爲メ設ケタル書函ニ差入アルトキハ口頭ヲ以テ委任セラレタルト同一ノ効アリトス

第六條　執達吏ハ委任ヲ受ケタル事件ヲ遲滯ナク完結ス可シ

施行上期間ヲ定メタルモノハ其期間内ニ必ス之ヲ完結ス可シ若シ正當ノ差支アル場合ニ於テハ相當ノ時間内ニ代理人任命ノ求ヲ區裁判所ニ申立ツ可シ

其他ノ場合ニ於テハ執達吏ハ委任事件ノ緩急ニ從ヒ順序ヲ定メ之ヲ完結ス可シ若シ此際任意競賣事件ノ委任ヲ受ケタルトキハ他ノ事件ノ後ニ之ヲ廻ス可シ

第七條　執達吏ハ日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニハ判事又ハ檢事ノ許可アルニ非サレハ其職務ヲ施行スルコトヲ得ス此許可ノ命令ハ職務施行ノ際之ヲ示シ又此職務施行ニ付キ作ル可キ證書中ニ其旨ヲ記入シ又書類ヲ送達スルトキハ命令ノ謄本ヲ添附ス可シ

第八條　夜間ニ强制執行行爲ヲ爲ス可キトキハ執行裁判所ノ許可ヲ受ク可シ

夜間トハ日没ヨリ日出マテノ時間ヲ謂フ

第九條　裁判所ノ休暇ハ執達吏ノ委任事件ヲ完結スルニ付テノ義務ニ影響ヲ及ホサヽルモノトス

第十條　執達吏ハ其職務上保管ス可キ金錢有價證券、書類及ヒ物品ヲ貯藏スル爲メ土藏又ハ堅牢ナル建物ヲ有シ又ハ之ヲ借置ク可キ義務アリ

第十一條　執達吏ハ其職務上保管ス可キ金錢ヲ自己ノ金錢ト區別シ且之ヲ密封シテ貯藏スル義務アリ

第十二條　執達吏ハ其職務上保管ス可キ金錢有價證券、書類及ヒ物品ヲ受取リタル場合ニ於テ之ヲ渡シタル官廳又ハ人民ヨリ其受取ノ證ヲ求ムルトキハ之ヲ交付ス可シ

民事訴訟法第五百三十五條ノ場合ニ於テハ右ノ求ナキモ受取ノ證ヲ交付ス可キモノトス

第十三條　執達吏ハ證書ヲ作ル場合ニ於テハ各證書ノ種類ニ付キ特別ノ規定ノ外尚ホ左ノ諸件ヲ遵守ス可シ

第一　各證書ニハ其作成ノ年月日時場所及ヒ住所官氏名ヲ記載シテ捺印ス可シ

第二　證書ハ明確ニ之ヲ作成シ且成ル可ク簡易ナル文字ヲ用ヰルコトニ注意ス可シ鉛筆ノ類ヲ用ヰルコトヲ許サス

第三　證書ハ其正本ナルト謄本ナルトヲ問ハス空行ナク之ヲ作ル可シ若シ抹消ヲ爲ス可キトキハ後日其文字ヲ讀ミ得ヘキコトニ注意シテ線ヲ引キ之ニ捺印ス可シ印刷シタル書式用紙中ニ記入ヲ爲ス可キ際其記入ス可キ事項ナキ部分

ニ付テハ後日記入ヲ爲サシメサル爲メ其空間ニ線ヲ引ク可シ

第四　時間ニ從ヒ手數料ヲ受ク可キ職務施行ニ關スル調書ニハ執務時間ヲ明揭ス可シ殊ニ着手ノ日時及ヒ終了ノ日時並ニ執務ヲ停止シタルトキハ其停止ノ時間ヲ記載ス可シ

第五　謄本ニハ謄本タル旨ヲ記ス可シ又職務上ノ認證ハ認證ナル語ヲ付シ之ニ署名捺印ス可シ執達吏ハ必ス謄本ト正本ト文字ノ符合シタルコトヲ確メタル上ニ非サレハ認證ヲ爲ス可カラス

第六　正本及ヒ謄本ニ付キ執達吏ハ本則第百十一條ノ規定ニ從ヒテ費用ノ計算ヲ爲ス可シ

第十四條　官印ハ鄭重ニ之ヲ貯藏シテ職務上ニ限リ之ヲ使用シ職務外ノ事件ニ用ヰルコトヲ許サス

若シ執達吏職ヲ罷メタルトキハ直チニ區裁判所ニ官印ヲ返納ス可シ

第十五條　執達吏ノ職務上ノ通信ニシテ封緘ヲ要スルトキハ相當ノ封印ヲ捺ス可シ此封印ハ執達吏自費ヲ以テ之ヲ作ル可シ

第十六條　執達吏ハ職務默秘ノ義務アルモノ

トス

第十七條　執達吏ハ強制執行ノ委任ヲ完結（民事訴訟法第五百六十四條第三項ノ場合ヲモ包含ス）シタルトキハ債權者ヲ滿足セシメタルト否トヲ問ハス執行ノ成績ヲ裁判所ニ屆出ルノ義務アリ

第二章　職務

第一節　送達

第一款　通則

第十八條　送達ハ送達ス可キ書類ノ正本又ハ認證シタル謄本又ハ普通ノ謄本ヲ交付シ其送達施行濟ノ旨ヲ送達證書ニ記ス可シ（民事訴訟法第百三十七條、第百五十一條）

第十九條　書類送達ノ際遵守ス可キ手續ハ書類ノ旨趣及ヒ種類ニ關ハラス總テ同一ニ之ヲ行フ可シ

第二款　民事事件ニ關スル送達

第二十條　執達吏ハ民事事件ニ關スル送達ニ付テハ民事訴訟法第百三十六條乃至第百五十一條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

第二十一條　送達ノ委任ハ原告若クハ被告ヨリ又ハ其訴訟代理人ヨリ裁判所書記ヲ經テ之ヲ爲スヲ通例トス（民事訴訟法第百三十六條第一項）

裁判所書記ヲ經テ委任ヲ受ケタル執達吏ハ其事件ニ關シ殊ニ手數料ニ關シテハ直接ニ原告又ハ被告ヨリ委任ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十二條　執達吏ハ送達ヲ施行スル前ニ十分施行上ノ準備ヲ爲シテ障碍若クハ延滯ヲ生セシメス且送達ノ効力ヲ害セシメサルコトニ注意シ殊ニ左ノ諸件ヲ調査ス可シ

第一　書類ニ署名捺印アルヤ否ヤ

第二　認證ヲ要スル謄本ニ認證アルヤ否ヤ

第三　謄本ハ必要ナル員數ヲ具備スルヤ否ヤ（民事訴訟法第百八條）

第四　呼出狀ニハ期日及ヒ場所ヲ掲ケアルヤ否ヤ

若シ欠缺アル場合ニ於テ執達吏適宜ニ補充シ得ヘキモノナルトキハ自ラ之ヲ補フ可シ

第二十三條　執達吏ハ送達ヲ爲ス可キ書類ヲ受取タルトキハ二十四時內ニ送達ヲ爲ス可シ其住所地外ニ於テ送達ヲ爲ス可キトキハ遲クトモ三日ヲ過ク可カラス但別段ノ指定アルトキハ此限ニ在ラス

日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ハ右日數ニ算入セス

第二十四條　送達ハ何レノ地ヲ問ハス送達ヲ受ク可キ人ニ出會ヒタル地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ此受取人カ其地ニ住居又ハ事務所ヲ有スルトキハ其住居又ハ事務所ノ外ニ於テ送達ヲ受クルノ義務ナキモノトス此場合ニ於テ本人送達ノ受取ヲ拒ムトキハ執達吏ハ必ス其住居又ハ事務所ニ就キテ送達ヲ爲サヽルヲ得ス（民事訴訟法第百四十四條）

住居又ハ事務所ノ外ニ於テ送達ヲ施行セントスルトキハ確實ニ書類ヲ交付シ且之ヲ受取ルニ適シタル場所及ヒ時機ヲ選ムコトヲ

要ス

第二十五條　送達ハ之ヲ受ク可キ本人ニ爲スヲ通例トス

訴訟能力ヲ有セサル原告又ハ被告ニ對スル送達ハ其法律上代理人ニ之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第百三十八條第一項）

公又ハ私ノ法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルヽコトヲ得ル會社又ハ社團ニ對スル送達ハ其首長又ハ事務擔當者ニ之ヲ爲ス可シ若シ數人ノ首長又ハ事務擔當者アル場合ニ於テハ其一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル（民事訴訟法第百三十八條第二項第三項）

豫備、後備ノ軍籍ニ在ヲサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對スル送達ハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第百三十九條）

囚人ニ對スル送達ハ監獄署ノ首長ニ之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第百四十條）

第二十六條　送達ハ之ヲ受ク可キ人ニ爲ス能ハサル場合ニ於テハ民事訴訟法第百四十五條乃至百四十八條ノ規定ニ從ヒ其他ノ者ニ之ヲ爲シ又ハ送達ス可キ書類ヲ市町村長ニ預置キ告知書ヲ作リ之ヲ貼附ス可シ此場合ニ於テハ以下數條ノ區別ニ從テ取扱フ可シ

第二十七條　住居ノ外ニ事務所ヲ有スル人ニ對スル送達ヲ爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ通例先ツ其事務所（店舗其他營業場ノ類）ニ到ル可シ若シ此事務所ニ於テ本人ニ出會ハサルトキハ送達ハ其事務所ニ在ル營業使用人（番頭手代職工其他雇傭人ヲ包含ス）ニ之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第百四十六條ノ上段）

前項ノ手續ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ執達吏ハ本人ノ住居ニ到ル可シ若シ此住居ニ於テモ出會ハサルトキハ本則第三十條乃至第三十二條ノ規定ニ從ヒ完結ス可シ

第二十八條　辯護士ニ對スル送達ヲ爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ通例先ツ其事務所ニ到ル

可シ若シ此事務所ニ於テ本人ニ出會ハサルトキハ送達ハ其事務所ニ在ル輔助人又ハ筆生ニ之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第百四十六條下段）

前項ノ手續ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ執達吏ハ辯護士ノ住居ニ到ル可シ若シ此住居ニ於テモ出會ハサルトキハ本則第三十條乃至第三十二條ノ規定ニ從ヒ完結ス可シ

第二十九條　公又ハ私ノ法人及ヒ會社又ハ社團ノ法律上代理人又ハ首長若クハ事務擔當者ニ對シ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ通例其事務所ノ執務時間內ニ其事務所ニ到ル可シ若シ此等ノ者ニ出會ハサルトキ又ハ此等ノ者カ送達ヲ受取ルニ付キ差支アルトキハ送達ハ其事務所ニ在ル他ノ役員又ハ雇人ニ之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第百三十八條、第百四十七條）

前項ノ手續ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ執達吏ハ此等ノ者ノ住居ニ到ル可シ若シ此住居ニ於テモ出會ハサルトキハ本則第三十條乃至第三十二條ノ規定ニ從ヒ完結ス可シ

第三十條　本則第二十七條乃至第二十九條ニ掲ケタル以外ノ者ニ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ通例本人ノ住居ニ到ル可シ若シ

此住居ニ於テ本人ニ出會ハサルトキハ送達ハ成長シタル同居ノ親族又ハ雇人ニ之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第百四十五條第一項）

第三十一條　前條ノ規定ニ從ヒ送達ヲ爲シ能ハサルトキハ執達吏ハ民事訴訟法第百四十五條第二項ノ規定ニ從ヒ書類ヲ預置ク可シ」

前項ノ場合ニ於テハ近隣ニ住居スル者二人ニ書類ヲ預置タル旨ヲ告ケ且本人ニ速カニ通知ス可キコトヲ囑託ス可シ又本人住居ノ戸ニ貼附スル告知書ニハ其預置タル場所並ニ書類ヲ速ニ受取ル可キ旨ヲ明記ス可シ

第三十二條　本則第二十七條乃至第三十條ニ

掲ケタル人ニ對スル送達又ハ預置ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ執達吏ハ先ツ送達ヲ爲シ又ハ之ヲ試ミントスル住居若クハ事務所ハ全ク受取本人ノ住居若クハ事務所ナルコト及ヒ送達ノ際應對スル者ハ全ク適當ノ人ニ相違ナキコトヲ確カムル可シ」

執達吏ハ受取本人ニ代リテ送達書類ヲ受取ル者ニ其書類ヲ速ニ本人ニ交付ス可キ義務アル旨ヲ告知ス可シ

第三十三條　送達ヲ受ク可キ者ハ正當ノ手續ヲ經テ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ受取ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス若シ此場合ニ於テ送

達ノ受取ヲ拒ムトキハ執達吏ハ交付ス可キ書類ヲ送達ノ場所ニ差置ク可シ（民事訴訟法第百四十九條）

第三十四條　執達吏ハ其爲シタル送達ニ付キ證書ヲ作ル可シ此證書ハ民事訴訟法第百五十一條ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス

送達證書ニ記載ス可キ事項數葉ニ渉ルトキハ之ニ契印ヲ捺ス可シ

送達證書ハ遲クトモ送達ノ翌日之ヲ裁判所書記ニ交付ス可シ

第三十五條　執行處分ニ關スル調書ノ送達、決定命令ノ送達、配當要求ノ送達、届書ノ送達、計算書ノ送達其他執行行爲ニ關スル通知、告知、催告ノ送達ハ特別ノ規定ニ從フ可シ（民事訴訟法第五百四十條、第五百四十一條、第五百六十六條、第五百九十一條、第五百九十八條、第六百條、第六百二條、第六百十二條、第六百二十條、第六百二十五條、第六百四十四條、第六百四十七條、第六百五十六條、第六百六十三條、第六百六十六條、第六百八十九條、第七百七條、第七百十條、第七百十五條、第七百二十七條及ヒ本則第五十二條、第七十九條、第八十四條、第百十一條）

第三款　他ノ裁判事件ニ關スル送達

第三十六條　刑事事件、非訟事件其他ノ裁判

ニ關スル事件ニ付キ執達吏カ送達付施行ス
ルトキハ民事事件ニ關スル送達ノ規定ニ倣
フ（刑事訴訟法第十九條）
送達施行ノ委任ハ裁判所書記之ヲ爲スヲ通
例トス

第三十七條　執達吏ハ召喚狀ヲ送達ス可キ場
合ニ於テハ其召喚狀ニ記載シタル被告人ニ
之ヲ送達ス可シ（刑事訴訟法第七十六條）若シ
其本人住居ニ在ラサルトキハ務メテ其人ヲ
捜索シテ之ニ送達ス可シ其人ノ所在不分明
ナルトキハ民事事件ニ關スル送達ノ規定ニ
倣フ

第三十八條　刑事事件ニ關スル送達ヲ囚人ニ
爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ左ノ特別ノ規定
ニ依ル可シ

第一　囚人ニ書類（刑事訴訟法第八十四條
ノ規定ニ於ケル勾留狀ヲモ包含ス）ヲ送
達スルトキハ其監獄署ノ吏員ノ立會ヲ
受ケ之ヲ本人ニ送達シ若シ本人カ直ケ
ニ之ヲ聽カント求ムルトキハ其書類ヲ
讀聞カス可シ

第二　公判ノ爲メ召喚狀ヲ送達スルニ際
シテハ被告ハ公判ニ關スル辯護ニ付キ
申立ヲ爲スヤヲ問フ可シ

右ノ問ヲ爲シタルコト及其答付送達證書又ハ特別ニ設ケタル調書ニ之ヲ記載スル可シ

執達吏ハ送達ニ關シ囚人ト交通ヲ爲スニ付テハ總テ監獄則ノ規定ニ違背セサルコトヲ要ス

第四款　裁判外ノ非訟事件ニ關スル送達

第三十九條　執達吏ハ裁判外ノ非訟事件ニ付テモ關係人ノ委任ニ依リ送達ヲ爲ス可シ（例ヘハ民法財産編第百四十五條以下ノ規定ニ於ケル賃貸借解約申入ノ告知又ハ同法第百七十六條、第百七十七條ノ規定ニ於ケル地上權者ノ豫告若クハ催告又ハ同法第四百七十四條以下ノ規定ニ於ケル提供ニ關スル送達又ハ商法第二百十二條以下ノ規定ニ於ケル株金拂込ニ付テノ通知若クハ催告ノ類）

右送達ハ民事事件ニ關スル送達ノ規定ニ倣フ可シ

第二節　民事事件ニ付テノ强制執行

第一款　通則

第四十條　執達吏ハ民事事件ニ付テノ强制執行ヲ實施スルモノトス但法律上執行行爲ヲ裁判所ニ任セタルモノハ此限ニ在ラス（本則

第四十一條、第四十二條）

執達吏ハ委任ヲ受ケタル強制執行ヲ實施スルニ當リ獨立シテ處分ヲ爲ス可キモノトス此處分ヲ爲スニ付テハ裁判所ノ監督ヲ受クルト雖モ直接ノ指揮ヲ受クルコトナシ但不動產及ヒ船舶ニ對スル強制執行ハ此限ニ在ラス

民事事件ニ付テノ強制執行ト稱スルハ訴ヲ起シテ裁判ヲ受ケタル事件ノミナラス債權者ノ請求ニ付キ訴訟手續ヲ經スシテ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ債務者ニ對シ強制ヲ以テ執行ヲ爲サシム可キ場合ヲモ包含スルモノトス（例ヘハ民事訴訟法第五百五十九條ノ規定ニ於ケル公證人ノ作リタル證書又ハ和解同法第八百條及ヒ八百二條ノ規定ニ於ケル仲裁人ノ判斷ノ類）

第四十一條　執達吏ノ職務範圍內ニ屬スル強制執行ハ左ノ如シ

第一　金錢ノ債權ニ付テノ有體動產ニ對スル強制執行（民事訴訟法第五百六十四條乃至第五百九十三條）

右ノ有體動產中ニハ記名證券、無記名證券、株券其他此ニ類スル有價證券ヲ包含ス（本則第七十五條）

爲替手形、約束手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ依レル債權（本則第七十五條）ハ差押ノ場合ニ於テハ有體動產トシテ之ヲ取扱フモノトス（民事訴訟法第六百三條）

第二　金錢ノ債權ニ付テノ不動產及ヒ船舶ニ對スル强制執行ニシテ裁判所ヨリ命セラレタル職務（民事訴訟法第六百四十三條、第六百五十九條、第六百六十三條、乃至第六百六十九條、第七百三條乃至第七百五條及ヒ第七百十七條以下）

第三　動產不動產及ヒ船舶ノ引渡若クハ明渡ヲ爲サシムル可キ强制執行（民事訴訟法第七百三十條、第七百三十一條）

第四　執達吏ノ職務ニ屬スル範圍內ニ於ケル假差押及ヒ假處分ノ執行（民事訴訟法第七百三十七條乃至第七百六十三條）此他執達吏ハ債權ニ對スル强制執行ニ關シ本則第八十三條乃至第八十五條ニ定メタル共力ヲ爲ス可キモノトス

第四十二條　執達吏ハ法律上裁判所ニ任セタル强制執行ヲ實施スルコトヲ得ス此場合ニ於テ當事者カ執達吏ニ之ヲ委任スルトキハ執達吏ハ裁判所ニ其申立ヲ爲ス可キ旨ヲ諭

示ス可シ

左ニ掲クル強制執行ハ裁判所ニ任セタルモノトス

第一　金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ニシテ左ニ掲クルモノ

(イ)　不動産(民事訴訟法第六百四十條乃至第七百十六條)及ヒ船舶(民事訴訟法第七百十七條乃至第七百二十九條)ニ對スル強制執行

(ロ)　債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行(民事訴訟法第五百九十四條乃至第六百二十五條)但前條第一號ノ第二項第三項ニ掲ケタル場合ハ此限ニ在ラス

第二　行爲ヲ爲サシムル爲メノ強制執行(民事訴訟法第七百三十三條乃至第七百三十六條)

第四十三條　強制執行ノ委任ハ債權者(裁判所書記ヲ經ス)自ラ之ヲ爲スヲ通例トス

然レトモ債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲メ執達吏所屬ノ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ執達吏ハ各執行行爲殊ニ取立テタル金錢ノ引渡ニ關シテハ債權者ヨリ直接ニ委任ヲ受ケタルモノト看做ス」

債權者訴訟ニ付キ書面委任ヲ以テ辯護士又ハ其他ノ者ニ訴訟代理ヲ委任シタルトキ訴訟代理人ハ其代理ノ繼續中執達吏ニ强制執行ノ委任ヲ爲ス可キ權アルモノトス然レトモ執達吏ハ取立テタル金錢其他ノ物品ヲ訴訟代理人ニ引渡サヽルヲ通例トス之ヲ引渡スニ付テハ債權者明カニ其旨ヲ求ムルカ又ハ代理人ノ得タル書面委任ニ其旨ヲ明記シアルトキニ限ル但相手方ヨリ辨濟ス可キ訴訟費用ハ訴訟代理人其訴訟委任中ニ於テ之ヲ領收スル權アルヲ以テ執達吏ハ之ヲ引渡スコトヲ得ルモノトス（民事訴訟法第六十五條）

執行力アル正本ヲ受取リ强制執行ノ委任ヲ受クルトキハ債權者ノ特別ナル陳述ナキモ支拂及ヒ其他ノ給付ヲ債務者ヨリ領收シ其領收シタルモノニ對シ受取證ヲ出シ及ヒ債務者完ク義務ヲ履行シタルトキ債務名義執行ノ基本トナル可キ證書ノ執行力アル正本ヲ引渡ス可キ委任ヲ包含スルモノトス故ニ執達吏ハ債務者及ヒ第三者ニ對シ執行力アル正本ヲ所持スルコトヲ必要トシ且强制執行ヲ實施シ及ヒ其實施ノ爲メ必要ナル總テノ行爲ヲ爲スニ十分ナル證據ヲ備フルコトヲ必要トス執達吏强制執行ヲ實施スルニ當リ

債務者及ヒ第三者ノ求アルトキハ右諸件ヲ具備スルコトヲ示シテ其資格ヲ證ス可シ

若シ債權者强制執行ニ立會フコトヲ求ムルトキハ執達吏ハ其債權者ノ立會アルニ非サレハ强制執行ヲ施行スルコトヲ得ス

第四十四條　强制執行ハ債務名義ノ執行力アル正本ニ基テノミ之ヲ爲スモノトス

此正本ハ必ス「前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ强制執行ヲ施行スル爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス」トノ式ヲ以テ執行文ヲ作リ且署名捺印アルヲ要ス（民事訴訟法第五百十七條）

執行力アル正本ハ裁判所書記之ヲ付與スルヲ通例トス（民事訴訟法第五百十六條）公證人ノ作リタル證書ニ付テハ公證人付與スルコトヲ得（民事訴訟法第五百六十二條）

執達吏ハ何レノ場合ニ於テモ注意ヲ爲シ適法ノ執行文ヲ記載シアルヤ否ヤヲ確カムルコトヲ要ス

執行文ニ於テ其制限ヲ命シ殊ニ强制執行ヲ受ク可キ物又ハ取立ツ可キ債權額ニ付キ制限ヲ命シタルトキハ執達吏ハ其制限ニ從テ執行ヲ爲ス可シ

第四十五條　執達吏ハ委任ヲ爲シタル債權者

ノ氏名カ執行文中ニ表示セラレ且執行ヲ受ク可キ債務者ノ氏名カ債務名義若クハ執行文中ニ表示セラレアルトキニ限リ强制執行ヲ始ムルコトヲ得若シ然ラサルトキハ執達吏ハ執行ニ著手スルヿヲ得ス

委任者ニ於テ承繼ニ因リ指名シアル債權者ノ位置ヲ自ラ占ムル可キヿヲ又ハ第三者ヲシテ指名シアル債務者ノ位置ニ當ラシム可キコトヲ主張スルトキハ執達吏ハ更ニ執行文ヲ求メシムル爲ノ委任者ヲ受訴裁判所ニ移ス可シ（民事訴訟法第五百十九條第五百二十一條）

債務者死去ノ際既ニ之ニ對シテ開始シタル强制執行ハ其遺産ニ對シ之ヲ繼續スルモノトス

第四十六條　督促手續ニ依リ發シタル執行命令（民事訴訟法第三百九十三條）并ニ假差押及ヒ假處分ノ命令（民事訴訟法第七百四十三條、第七百五十六條）ノ正本ハ執行文ヲ要セス執行ヲ爲スコトヲ得

執行命令又ハ假差押及ヒ假處分ノ命令ニ於テ指名セサル者ノ爲メ若クハ指名セサル者ニ對シテハ執達吏ハ更ニ其者ヲ指名シタル執行文アルトキニ限リ債務名義ヲ執行スル

コトヲ得（民事訴訟法第五百六十一條、第七百四十九條）

第四十七條　外國裁判所ノ判決ニ付テハ執達吏ハ本邦ノ裁判所ノ執行判決及ヒ裁判所書記ヨリ付與シタル執行文ニ依ルトキニ限リ執行ヲ爲スコトヲ得（民事訴訟法第五百十四條、第五百十六條）

第四十八條　執行裁判所ハ執行ヲ爲ス可キ地又ハ其手續ニ着手シタル地ノ管轄區裁判所ナリトス此裁判所ハ執達吏カ强制執行ヲ實施スルニ付テノ行爲ニ對スル申立及ヒ異議ヲ裁判ス（民事訴訟法第五百四十四條）

第四十九條　執達吏ハ總テノ場合ニ於テ執行力アル正本ハ條件到來以前ニ付與セラレタルモ其條件ノ到來シタル後ニ非サレハ强制執行ヲ實施ス可ラサルカ如キ條件付ノモノヲ精密ニ調査シテ自ラ之ヲ確カムルノ義務アルモノトス故ニ執達吏ハ執行力アル正本ヲ得ルトモ直ニ强制執行ニ着手シ能ハサルコトアル可シ

左ニ揭クル諸件ハ殊ニ注意ヲ要ス

第一　債務名義ニ因リ日時ノ到來スルニ非サレハ請求ノ生セサル場合ニ在テハ執達吏ハ其日時ノ滿了後强制執行ヲ始

ムルコトヲ得可シ（民事訴訟法第五百二十九條第一項）

第二　債務名義ニ於テ其執行ハ債權者ヨリ債務者ニ保證ヲ立テタル後ニ之ヲ爲ス可キ場合ニ在テハ執達吏ハ債務名義ニ開示シタル保證額ヲ供託シタル公正ノ證明書ヲ得タル後强制執行ヲ始ムルコトヲ得可シ（民事訴訟法第五百二十九條第二項）

第三　豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ强制執行ヲ爲ス可キトキハ其上班司令官廳ニ通知ヲ爲シタル後强制執行ヲ始ムルコトヲ得可シ（民事訴訟法第五百三十條及ヒ本則第八十條）

債權者自ラ右官廳ニ通知ヲ爲シタルトキハ執達吏ハ其證書ヲ債權者ヨリ差出サシム可シ

第四　執達吏ハ總テ强制執行ヲ始ムル前左ノ證書ヲ債務者ニ送達シタルヤ否ヤヲ調査ス可シ

(イ)　强制執行ノ基本トナル可キ債務名義（判決、公正證書等）

(ロ)　判決ノ旨趣ニ依リ事實ノ到來スルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得サル

場合又ハ債權者若クハ債務者カ承繼
(相續ヲ包含ス)ヲ爲シタル場合ニ於テ
ハ執行文又證明書ニ依リ執行文ヲ付
與シタルトキハ其證書ノ謄本(民事訴
訟法第五百二十八條)
然レトモ債權者カ保證ヲ立ツルニ非サ
レハ執行ヲ爲スコトヲ得サル場合(第
二號)ニ於テハ執行文ノ送達ヲ要セス」
(ハ) 第二號ノ場合ニ於テハ保證ヲ立テ
タル公正ノ證明書
右證書(イ)、(ロ)ヲ未タ送達セサル場合ニ於
テハ執達吏ハ其送達ヲ爲シタルト同時

ニ強制執行ヲ始ム可シ

第五百三十六條

第五 破産手續續行中ニハ破産債權者ノ
爲メ破産者ノ財産ニ付キ差押又ハ強制
執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五十條 執達吏強制執行ヲ始メ得ルニ至ル
トキハ速ニ其目的ヲ達ス可キ方法ニ從ヒ直
チニ強制執行ヲ始ムルコトヲ要ス然レトモ
其強制執行ヲ爲スカ爲メ債務者ニ損害ヲ被
ムラシム可カラス
執行ノ際債務者ニ出會ヒタルトキハ執達吏
ハ其執行ニ着手スルニ先チ債務者ニ任意ノ
辨償ヲ催告ス可シ若シ債務者ニ出會ハスシ

ヲ親族ニ出會ヒタルトキハ其親族ニ之ヲ催告スヲ可シ

右ノ催告ニ因リ爲シタル任意ノ辨償又ハ其一分ノ辨償ハ執達吏之ヲ受取リ且之ヲ債權者ニ引渡ス可シ

債權者及ヒ債務者ノ願望ニ任ストキハ之カ爲メ無要ノ費用及ヒ混雜ヲ生スルコトナク且執行ノ目的ヲ害セス其願望ヲ達シ得ヘキ場合ニ限リ相當ノ斟酌ヲ爲ス可シ

強制執行ヲ爲スニ當リ必要ナル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用ユ可シ此場合ニ於ケル手續ニ付テハ民事訴訟法第五百三十六條、第五百三十七條ノ規定ニ從フ可シ

債務者ノ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムルニ必要ナル場合(民事訴訟法第五百三十六條第一項)ニ於テハ執達吏ハ之ヲ開クニ付キ損害ヲ避クル爲メ相當ナル職工ヲ用ユ可シ

證人ヲシテ執行ニ立會ハシムルトキ(民事訴訟法第五百三十七條)ハ成ル可ク強制執行ヲ爲ス可キ地ニ住居シテ其事件ニ無關係ナル者ヲ選ム可シ

第五十一條　執達吏ハ強制執行ノ實施ト同時ニ強制執行ノ費用ヲ債務者ノ有体動産(差押

財産)ヨリ取立ツルモノトス此費用ニハ弥ニ執達吏ノ手數料、立替金、執行力アル正本付與ノ費用及ヒ強制執行ニ付キ債權者ノ受取ル可キ裁判外ノ必要ナル費用ヲ包含ス(民事訴訟法第五百五十四條民事訴訟費用規則第十六條)但金錢ノ債權ニ對スル強制執行ト其他ノ強制執行トニ依リ區別ナキモノトス

第五十二條　執達吏ハ總テノ執行行爲ニ付キ調書ヲ作ル可キモノトス其調書ハ民事訴訟法第五百四十條及ヒ第五百四十一條ノ規定ニ從フ可シ此調書ニハ執行ニ關スル總テノ命令ヲ記載シ又債權者ヲ滿足セシムルコト能ハサルトキハ總テ適法ナル方法ニ依リ債權者ヲ滿足セシム可キコトヲ試ミタルモ其目的ヲ達セサリシコトヲ調書ニ於テ明確ニスルコトヲ要ス

調書ハ執行行爲ト同時ニ之ヲ作リ且成ル可ク其行爲ヲ爲シタル地ニ於テ之ヲ作ル可シ

第五十三條　執達吏ハ債務者又ハ第三者ノ異議アルモ執行ヲ停止ス可カラス債權者ノ申出ナキモ例外ヲ以テ其執行ヲ停止ス可キ場合又ハ既ニ爲レタル執行處分ヲ取消ス可ク若クハ其處分ヲ一時保持ス可キ場合ニ付テハ民事訴訟法第五百五十條及ヒ第五百五十

一條ノ規定ニ從フ可シ

強制執行ヲ實施セサリシトキト雖モ其顚末ニ關スル調書ヲ作リ此調書ニハ執行停止ノ基本ト爲リタル書類ヲ明細ニ記載シ且其事項ニ關スル命令ヲ記入ス可シ

執行ノ停止又ハ制限ハ債權者ニ之ヲ通知ス可シ

強制執行ノ停止又ハ制限ニ關シテハ右ノ外尙ホ左ノ諸件ヲ遵守ス可シ

第一　民事訴訟法第五百五十條第一號ノ規定ニ從ヒタル裁判ニ依リ債務者ニ於テ強制執行ノ停止又ハ制限ヲ求ムルトキハ執達吏ハ其裁判ノ執行ヲ爲ス可キモノナルヤ否ヤニ付キ調査ス可シ

執行ヲ爲スコトヲ得ヘキ裁判トハ假執行ノ宣言ヲ付シタル裁判又ハ確定シタル裁判ヲ云フ

上告審タル控訴院及ヒ大審院ノ爲シタル判決ハ證明書(民事訴訟法第四百九十九條)ナキモ確定力ヲ有ス然レトモ右判決カ闕席判決タル場合ニ於テハ其確定力ノ證明書アルヲ要ス

抗告審ニ於テ爲シタル裁判又ハ假執行ノ判決若クハ其假執行ヲ取消シタル裁

判ハ何レノ場合ニ於テモ強制執行ノ停止ヲ爲スノ理由トナルモノトス

第二　民事訴訟法第五百五十條第二號ノ場合ニ於テ或ル時間ヲ限リ一時ノ停止ヲ命シタルトキハ右時間ノ滿了後強制執行ヲ繼續ス可シ

第三　民事訴訟法第五百五十條第四號ニ掲ケタル義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル場合ニ於テ更ニ債權者ヨリ求アルトキハ再ヒ強制執行ヲ繼續ス可キモノトス

第五十四條　債權者ノ申出アルトキハ執達吏ハ其申出ニ從ヒ何時タリトモ其強制執行ヲ全ク停止シ又ハ之ヲ制限ス可キモノトス此申出ニ付テハ債權者ノ書面上ノ陳述又ハ執達吏ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書上ノ陳述ハ之ヲ記錄ニ添附ス可シ執達吏ハ一時停止ノ場合殊ニ延期ノ場合ニ於テハ債權者ヨリ一定ノ期日ヲ指定セサリシトキハ執行再始ニ付キ債權者ノ再度ノ申出ヲ待ツ可キモノトス一定ノ期日ヲ指定シタル場合ニ於テハ右期日到來ノ後直チニ其強制執行ヲ繼續ス可キモノトス

第五十五條　執達吏ハ別段ノ規定ナキトキト雖モ債權者及ヒ債務者ノ利益ヲ保存スルニ

必要ナリト認ムルトキハ強制執行ノ完結ヲ債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

右通知ヲ爲シタルコトノ證明ハ法律上之ニ關スル別段ノ規定ナキトキニ限リ記錄中ニ爲シタル執達吏ノ簡單ナル記載ヲ以テ足レリトス

第二款　有體動産ニ對スル强制執行

第五十六條　有體動産ニ對スル金錢ノ債權ニ付テノ强制執行ハ民事訴訟法第五百六十四條乃至第五百九十三條ノ規定ニ從ヒ差押及ヒ換價ニ依テ執達吏之ヲ爲スモノトス

第五十七條　强制執行ヲ爲ス執達吏ハ其債務者ノ住居ニ於テ本人ニ出會ヒタルトキ任意辨償ヲ爲シテ債權者ヲ滿足セシム可キ催告ヲ爲スモ其効ヲ見サル場合ニ於テハ執行ノ目的上必要トスル限度ニ於テ債務者ノ住居、倉庫ノ戸扉及ヒ筐匣ヲ開キ且債務者ノ財産ヲ點檢ス可シ

債權者ノ利益ヲ損傷スル恐ナキトキハ債務者ノ陳述ヲ斟酌シ債務者ニ於テ最モ放ナ易キ財産中殊ニ金錢、有價證券及ヒ金銀物等ノ如キ容易ニ運搬シ得ヘキ物ニ付キ差押ヲ爲ス可シ

强制執行ニ際シ如何ナル有價證券ハ有體動

産ト同一ノ方法ヲ以テ取扱フ可キヤハ本則第七十五條ノ規定ニ從フ可シ若シ現在スル有價證券ヲ有體動産中ニ加フ可キコトニ付キ疑アルトキハ執達吏ハ債權者ノ債權ヲ償フニ十分ナル他ノ物ナキ場合ニ限リ假ニ其有價證券ヲ差押フ可キモノトス

過當ノ差押ヲ避クル爲メ執達吏ハ差押ヲ爲ス可キ物ヲ調書ニ記載スルニ當リ其各物ニ付キ概算ノ價額ヲ記入シ且差押物ノ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟シ及ヒ强制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キ額ヲ標準トシテ差押ノ範圍ヲ定ムルコトヲ要ス

第五十八條　執達吏ハ債務者ノ財産中如何ナル物ハ民事訴訟法第五百七十條ノ規定ニ依リ差押フ可カラサルヤ否ヤニ關シ之ヲ判別ス可シ債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサルノ恐ナキトキハ其差押ヲ爲スニ付キ疑アル物ヲ差押フ可カラス

差押フ可カラサル物ノミナルカ又ハ全ク價値ナキ物ノミナルカ又ハ其物ヲ賣却スルモ强制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキ（民事訴訟法第五百六十四條第三項）カ爲メ差押ヲ爲サヽル場合ニ於テハ執達吏ハ其物ノ種類、性質及ヒ價値ノ概況ヲ調書ニ記シテ

之ヲ差押ヘサルハ適當ナルコトヲ證シ置ク可レ高價ノ物又ハ當然差押フ可キ物及ヒ差押ヲ爲スニ疑アル物ニ付テハ常ニ其各物ヲ詳細ニ記載シ其他ノ物ニ關シテハ該物ノ種類ヲ記シ法律上差押フ可カラサル物ナル旨ヲ證スルヲ以テ足ル

執達吏ハ如何ナル塲合ニ在テモ債務者ニ於テ辨濟資力ノナキコト又ハ差押フ可カラサル財産ノミナルコト又ハ差押フ可キ財産ノ價値ハ强制執行ノ費用ヲ償フニ足ラサルコト等ノ簡約ナル記載ヲ以テ足レリトスルコトヲ得ス

第五十九條　差押ノ際債務者ノ占有スル財産ニ付キ債務者ヨリ第三者ノ爲メニ請求ヲ爲シ又ハ第三者ヨリ請求ヲ爲スコトアルモ執達吏ハ之カ爲ニ其差押ヲ止ムルコトヲ得ス然レトモ其要求ヲ其財産ノ或ル一分ノミニ付キ爲シタルトキハ執達吏ハ之ヲ差押ヘサルモ債權者ノ利益ニ影響ヲ及ホサヽルヤ否ヤヲ斟酌ス可シ若シ其請求ヲ爲シタル物ヲ除キ他ノ物ヲ以テ債權者ヲ滿足セシメ且强制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキニ限リ其請求ニ係ル物ノ差押ヲ止ムルコトヲ得執達吏ハ如何ナル塲合ト雖モ債權者ノ諭告アル

トキハ其諭告ヲ遵守ス可キモノトス

債權者ヲ滿足セシメ及ヒ强制執行ノ費用ヲ完償スルカ爲メ如何ナル部分ニマテ差押ヲ擴張ス可キヤノ判斷ヲ爲スニ當リ執達吏ハ成ル可ク申出テタル請求ヲシテ成立シムルコトニ注意ス可シ

請求ノ申出アリタル物ヲ差押タルトキハ執達吏ハ其請求ヲ裁判所ニ依リ主張ス可キコトヲ第三者ニ諭示シ(民事訴訟法第五百四十九條、第五百六十五條及ヒ第五百四十七條)且必要ナリト認ムル塲合ニ於テハ請求ノ申出ヲ債權者ニ通知ス可シ

第六十條　民事訴訟法第五百六十六條ノ規定ニ從ヒ債務者ノ占有中ニ在ル有體動產ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ストキニ限リ其効アルモノトス

執達吏ハ右ノ目的ヲ達スル爲メ債務者ヨリ其物ヲ取上ケ且本則第六十五條ニ於ケル例外ノ規定ニ從フ可キ塲合ノ外ハ債務者ノ占有ヲモ引離ツ可シ

執達吏ハ差押ヘタル物ノ貯藏及ヒ保管ヲ爲シ又ハ必要ナル塲合ニ於テハ換價スルマテ其物ヲ保全スルノ義務アリ

執達吏ハ差押物ノ貯藏殊ニ其物ノ運搬ニ關

シ又ハ管理人若クハ保存人ノ任命ニ關シ無益ナル費用ヲ來サヽルコト及右保存人等ヲシテ規定ニ背戻セシメサルコトノ責ニ任スルモノトス

差押物ノ貯藏ニ關スル處分ハ差押調書中ニ之ヲ記載ス可シ

第六十一條　差押金錢ハ遲クトモ差押ヲ爲シタル日ヨリ二日內ニ之ヲ債權者ニ引渡シ又ハ供託ヲ爲サヽルヲ得サル場合ニ於テハ之ヲ供託ス可シ（本則第九十六條）其引渡若クハ供託ヲ爲スマテハ本則第十條ノ規定ニ從ヒ之ヲ保存ス可シ

第六十二條　執達吏ハ差押物貯藏所（本則第十條）ニ於テ貯藏保存スル爲メ費用ヲ要スル場合ニ限リ其實費トシテ相當ナル金額ノ豫納ヲ爲サシムルコトヲ得

差押物貯藏所ニ保存シタル物ニ付テハ事件ノ番號ヲ附シ他ノ執行ニ屬スル物ト區別ヲ爲シテ混雜ヲ生セサルコトニ注意ス可シ

貯藏スルニ適當ナル差押物ヲ執達吏ノ住所地ニ於テ差押ヘタルトキハ差押物貯藏所ニ之ヲ保存スルヲ通例トス

其住所地外ニ於テ差押ヘタル物ニ付テハ執達吏ハ其事情殊ニ將來競賣ヲ爲ス可キ土地

ノ關係ニ依リ之ヲ差押物貯藏所ニ運搬スルヲ適當トスルヤ又ハ本則第六十三條ノ規定ニ從ヒ之ヲ保存スヲ可キヤヲ定ム可シ

第六十三條　差押物貯藏所ヲ有セサルトキ又ハ之ヲ有スルモ差押物ノ性質ニ依リ又ハ其他ノ理由殊ニ執達吏ノ住所地外ニ於テ差押ヘタル物ニ付キ之カ爲メ許多ノ費用ヲ增加スルニ依リ在來ノ貯藏所ヲ使用ス可カラサルカ若クハ之ヲ使用スルノ不利益ナルトキニ於テハ其差押物ハ差押ヲ爲シタル土地ニ住居シテ信用アリ且辯償能力アル者ニ託シテ保存ヲ爲サシム可シ

委託ヲ受ケタル者ハ其求ニ依リ委託物ノ目錄ヲ領收ス其保存ニ關スル報酬ハ成ル可ク前以テ之ヲ確定ス可シ

執達吏ハ保存ノ爲メ委託シタル物ヲ確收シタル旨ノ證書ヲ保存人ヨリ受取リ又保存人ノ求ニ因リ該證書ノ謄本ヲ交付ス可シ

必要ナル場合ニ於テハ保存人任命ニ關スル調書ヲ作リ之ヲ差押調書ニ添附スルモノトス

此調書ニハ左ノ諸件ヲ掲ケ且保存人ニ署名捺印セシム可シ

第一　保存人ト爲シタル約款

第二　物ノ交付ニ關スル保存人ノ認諾

第三　保存ノ爲メ交付シタル物ノ記載

第六十四條　高價物（金銀物ヲ包含ス）及ヒ有價證券ハ他人ノ金錢ヲ保存スルトキノ如ク（本則第十一條）之ヲ密封シ其封皮上ニ物ノ名稱及ヒ事件ノ番號ヲ記載ス可シ

第六十五條　民事訴訟法第五百六十六條第二項ノ規定ニ從ヒ執達吏カ差押物ヲ債務者ノ保管ニ任スコトヲ得ルハ左ノ場合ニ限ル

（イ）債權者ノ承諾アルトキ

（ロ）運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキ

右ノ場合ニ於テモ執達吏ハ封印又ハ其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニス可シ

此場合ニ於テハ尙ホ左ノ事項ヲ遵守ス可シ

第一　債權者ノ承諾ニ付テハ債權者ノ書面又ハ口頭陳述ノ書取又ハ執達吏ノ執行記錄ノ記載ヲ以テ之ヲ明確ニス可シ

第二　封印又ハ其他ノ方法ヲ爲スニハ各差押物毎ニ其差押ヲ明カニス可シ此目的ヲ達スルニハ各差押物毎ニ封印ス可キカ又ハ其物ノ存在スル筐匣、室、倉庫等ノミニ封印ス可キカニ付テハ執達吏ハ其物ノ性質其他ノ事情ニ從ヒ之ヲ定ム

可シ筐匣、室、倉庫等ノミニ封印スル場合ニ於テハ其封印又ハ筐匣等ヲ損傷スル ニ非サレハ其差押物ヲ取出シ得サルコトニ注意ス可シ

差押物ノ性質ニ依リ封印ヲ爲シ得可カラサルカ又ハ差押物ノ標目ヲ附シ得サル場合ニ於テハ執達吏ノ署名シタル告示ヲ差押物ニ接近セシ各人ノ見易キ場所ニ貼附スルカ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ以テ各人ニ之ヲ知ラシム可キモノトス此場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ其管理人ヲ任命ス可シ

第三 執達吏ハ差押物ノ占有已ニ歸シタル旨及ヒ債務者其物ヲ處分シ若クハ封印ヲ破壞シ爲メニ法律上ノ罰ヲ受クルコトナキ樣注意ス可キ旨ヲ債務者ニ諭示ス可シ

第四 差押調書ニハ差押物ヲ債務者ノ保管ニ任セタル理由、封印ノ數及ヒ其差押ノ告示竝ニ保全ノ爲メ爲シタル處分ヲ記載シ且第三號ノ規定ニ從ヒ債務者ニ諭示ヲ爲シタル旨ヲ記載ス可シ

第六十六條 第三者ノ占有中ニ在リテ債務者ニ屬スル物ノ差押ヲ債權者ヨリ求ムルトキ

ハ執達吏ハ先ツ第三者ニ對シテ其物ヲ直チニ引渡シ得ルヤ否ヤヲ訊問ス可シ

第三者之ヲ承諾スルトキハ債務者ノ占有スル物ヲ差押フルト同一ノ方法ヲ以テ差押ヲ爲ス可シ(民事訴訟法第五百六十七條)

若シ第三者カ物ノ提出ヲ拒ミ又ハ執達吏ノ之ヲ占有スルニ付キ異議ヲ述フルトキハ執達吏ハ其事實ノ調書ヲ作ルニ止マリ爾后ノ處分ハ債權者本人ニ任ス可シ

債權者ノ占有中ニ在リテ債務者ニ屬スル物ノ差押ヲ債權者ヨリ求ムルトキハ執達吏ハ通常ノ手續ニ依リ直チニ差押ヲ爲ス可シ(民事訴訟法第五百六十七條)

第六十七條　債權者又ハ第三者ノ占有中ニ在ル物ヲ差押ヘタルトキハ執達吏ハ民事訴訟法第五百四十一條ノ規定ニ從ヒ差押ヲ施行シタル旨ヲ債務者ニ通知ス可シ

第六十八條　差押ニ付キ作ル可キ調書(民事訴訟法第五百四十條)ニハ尙ホ左ノ諸件ヲ揭ク可シ

第一　各物ノ概算價額ヲ附シタル差押物ノ詳細ナル記載又必要ナル場合ニ於テハ員數、尺度、重量等ノ記載

第二　執達吏差押物ヲ占有シタルコトノ

記載

第三　保存ノ際爲シタル處分ノ記載

第四　債務者ニ差押ヲ通知シタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ通知ヲ爲シタルヤ（民事訴訟法第五百四十一條）ノ記載

第五　競賣期日ノ日時場所若シ此期日ヲ直ナニ定ムルコトヲ得サルトキハ其理由ノ記載

右記載ノ外調書ニハ差押ノ各種ノ方法又ハ差押ノ際特別ノ事件ニ付キ別ニ規定シタル事項ヲ記載ス（本則第五十三條、第五十八條、第六十五條第四號）又調書ヲ作リタル後其謄本ヲ債務者ニ送達シタルトキハ調書ノ附錄トシテ其旨ヲ附記ス可シ

第六十九條　差押物ノ換價ハ更ニ債權者ノ委任ヲ待タス執達吏直ナニ民事訴訟法第五百七十二條乃至第五百八十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

差押物中高價ノ物アルトキハ執達吏ハ先ツ適當ナル鑑定人ナシテ之ヲ評價セシム可シ執達吏ノ調書ニ右評價ヲ記載セサルトキハ鑑定人ナシテ其評價書ヲ作ラシム可シ

執達吏ハ差押物ヲ競賣ニ付スルト他ノ方法ヲ以テ適宜ニ賣却スルトヲ問ハス自ラ之ヲ

買取リ又ハ家族若クハ他人ニ依テ之ヲ買取リ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ買取ラシムルコトヲ許サス又執達吏ハ競賣補助ノ爲メ立會ハシメタル者ヲシテ競買ニ加ラシムルコトヲ許ス可カラス

第七十條　執達吏差押物ヲ賣却スルトキハ民事訴訟法第五百七十二條乃至第五百七十八條ノ規定ニ從ヒ競賣ノ方法ニ依ル可シ但特別ノ場合ニ於テ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價スルトキハ本則第七十四條ノ規定ニ從フ可レ

競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス可シ但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキ又ハ執行裁判所ヨリ競賣ノ場所ヲ指定シタルトキハ其場所ニ於テ之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第五百七十六條第一項及ヒ第五百八十五條）

債權者ノ利益ノ爲メ他ノ場所ニ於テ競賣ヲ爲スヲ必要トスル場合就中差押ヲ爲シタル場所ニテハ相當ノ價額ヲ得ル能ハサル場合又ハ差押ヘタル物ヲ保管スル爲メ他ノ場所ニ貯藏シタル場合ニ於テハ執達吏ハ債權者ニ其旨ヲ通知シ若シ債權者ト債務者ノ間ニ於テ他ノ場所ニテ競賣ヲ爲スコトノ合意整

ハサルトキハ執行裁判所ニ競賣場所ノ指定ヲ求ムル可シ

第七十一條　競賣期日ハ執達吏差押ノ際直チニ之ヲ定ムルヲ通例トス若シ債權者及ヒ債務者後日ニ期日ヲ定ムルコトヲ承諾シタル場合又ハ直チニ期日ヲ定ムル能ハサル特別ノ場合若クハ直チニ定ムルノ便益ナラサル場合例ヘハ土地ヨリ離レサル果實又ハ蠶ヲ差押ヘタルモ其果實ノ成熟時期又ハ蠶ノ繭ト爲ル時（民事訴訟法第五百六十八條及第五百八十四條）ヲ確知シ能ハサル場合又ハ執行裁判所ノ意見ヲ以テ他ノ換價方法ヲ命シ若クハ他ノ場所ニ於テ競賣ヲ命セラル可キ場合ニ於テハ一時期日ノ指定ヲ猶豫ス可シ

差押ノ際直チニ期日ヲ定メサル場合ニ於テハ之ヲ定メタルトキ其期日ヲ債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ノ時間ハ民事訴訟法第五百七十五條ノ規定ニ從ヒ賣却ス可キ差押物ノ性質、價額ニ適當ノ方法ヲ以テ競賣ノ日時及ヒ場所ヲ公告シ得可キ樣之ヲ定ム可シ（民事訴訟法第五百七十六條第二項）

右時間ハ通例十四日ト定ム差押後一ヶ月以上競賣ヲ延ハスコトハ顯著ナル特別ノ理由

アルニ非サレハ之ヲ許サス

競賣ハ前以テ公告セサル可カラス公告ハ其地ニ相應ノ方法(掲示板ニ貼付又ハ新聞紙ニテ廣告スルノ類)ヲ以テ爲ス可シ

公告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一　競賣ス可キ物ノ略記(例ヘハ家具、寢具、衣類)就中高價物ハ特別ニ之ヲ掲ク可シ

第二　競賣ノ日時及ヒ場所

公告ヲ爲シタル方法日時ハ執達吏ノ調書ニ附記シ又ハ其證據トナル可キモノヲ添附シ以テ之ヲ明確ニス可シ

既ニ公告シタル日時ヲ改メントスルトキハ更ニ公告ヲ爲ス可シ殊ニ貼付シタル公告ハ直チニ之ヲ取除ク可シ

第七十二條　競賣期日前ニ於テ競賣ス可キ物ヲ差押調書ト比照シ且賣却ノ準備ヲ爲ス可シ

差押物ニ不足アリタルキ又ハ毀損アリタルキハ其旨ヲ差押調書ニ記入シ若シ其物ヲ保存人ニ委託シアリタルトキハ此物ノ返還ノ際作ル可キ調書ニ其旨ヲ記入ス可シ各差押物ノ不足又ハ毀損ニ付テノ調書又ハ調書ノ附錄ハ其謄本ヲ以テ債務者ニ通知シ又其保

存人ヨリ差押物ヲ正當ニ返還シタルノ證ヲ求ムルトキハ執達吏ハ之ヲ交付ス可シ

期日ニハ先ツ賣却條件ヲ告知ス可シ民事訴訟法第五百七十七條ニ規定シタル條件ト異ナル處分ハ執行裁判所ノ命シタルトキ又ハ債權者及ヒ債務者ノ合意ニ依ルトキニ非サレハ之ヲ許サス

賣却條件ヲ告知シタル後競賣ヲ催告ス可シ

競賣ニ附シタル物ハ競賣調書ニ記入ス可シ

賣却物ハ一々之ヲ呼上ケ實物ヲ示ス可シ高價物ハ其評價ヲ告ケ金銀物ハ其實價ヲ告ケテ競買價額ハ其評價若クハ實價ヨリ低價ノ

競買ヲ許サヽル旨ヲ諭示ス可シ

競落ノ節ハ直チニ競賣調書ニ每品其最高競買價額及ヒ競落人ノ氏名ヲ綿密ニ附記シ又其代價ヲ支拂ヒタルトキハ直チニ其旨ヲ附記ス可シ

競賣ニ付スル物ノ不相當ニ過分ナルコトヲ避ケン爲メ執達吏ハ時々其賣得金ヲ以テ計算ヲ立テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ强制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ競賣ヲ止ム可シ（民事訴訟法第五百七十八條）

競賣ニ付シタル金銀物ニシテ其金銀物ノ實價マテニ競買ヲ爲ス者ナキカ爲メ競落ヲ爲

シ得サルトキハ其競買價中ノ最高價額ヲ競賣調書ニ附記ス可シ

第七十三條　競賣ノ際作ル可キ調書（民事訴訟法第五百四十條及ヒ本則第十二條、第五十二條）ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一　競賣ノ賣得金ヲ以テ辨濟ス可キ債權及ヒ强制執行ノ費用ノ合計額

第二　若シ賣却條件カ民事訴訟法第五百七十七條ノ規定ニ異ナレル場合ニ於テハ其賣却條件ヲ掲ク可シ（本則第七十二條）

第三　競賣物ヲ列記シ且其各物ニ付キ競落人及ヒ其最高競買價額ヲ記載シ幷ニ代金支拂濟ノ旨ヲモ附記ス可シ

調書ニ署名捺印ヲ要スル者（民事訴訟法第五百四十條、第三號第四號）ハ競買人中唯タ各最高價申出人ニ限ル若シ此等ノ者期日ノ終結前ニ退散シタルトキハ其署名捺印セシムルコト能ハサル理由ヲ調書ニ附記ス可シ

第七十四條　差押物ヲ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價スル場合ハ左ノ如シ

第一　執行裁判所ヨリ競賣ノ方法ニ依ワスシテ換價ヲ爲ス可キコトヲ命シタルトキ（民事訴訟法第五百八十五條）

第二　有價證券ニシテ取引所相場又ハ市
相場アルモノタルトキ（民事訴訟法第五
百八十一條以下）
第三　金銀物ニシテ既ニ競賣ニ付シタル
モ其最高競買價額カ其實價ニ至ラサル
トキ（民事訴訟法第五百八十條）
右賣却ハ直接ニ債權者ニモ亦之ヲ爲スコト
ヲ得
競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ヲ爲ストキハ
執達吏ハ成ル可ク高價ニ賣却ス可キコトニ
注意ス可シ就中金銀物ヲ其實價ヨリ低價ニ
賣却シ又ハ有價證券ヲ其賣却日ノ相場ヨリ

低價ニ賣却ス可カラス
債權者ト債務者トノ間ニ合意アラサルトキ
ハ必ラス代金ヲ支拂ヒタル後ニ非レサレハ
買主ニ賣却物ヲ渡ス可ラカス
執行裁判所ヨリ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換
價ヲ爲ス可キコトヲ命シタルトキハ此命令
ヲ遵守ス可シ
此賣却ノ際作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ掲
ク可シ
第一　競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價シタ
ル理由
第二　賣却物ヲ綿密ニ記載シ且金銀物ノ

評價額又ハ有價證券ノ賣却日ノ相場又ハ執行裁判所ノ定メタル價額

第三　賣買ノ行爲及ヒ其履行方法

第七十五條　金錢ノ債權ニ付キ强制執行ヲ爲ス場合ニ於テハ有價證券ハ有体動產ト同一ノ方法ヲ以テ執達吏之ヲ差押ヘ競賣ニ付スルカ又ハ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ス可シ

此場合ニ於テハ無記名及ヒ記名ノ有價證券ヲ區別ス可シ

無記名證券ニ付テハ各所有者ハ第三者ニ對シ此證券並ニ之ニ基ク權利ヲ自由ニ處分スルコトヲ得ルモノトス

記名證券ニ付テハ唯タ其記名者又ハ讓渡ノ後ニ在テハ讓渡證書ニ記名アル者ニ限リ此證券ヲ處分スルコトヲ得ルモノトス

有價證券賣却ノ際執達吏ハ最注意シテ執務ス可シ殊ニ其賣却方法ニ付キ特ニ執行裁判所ノ命ナキトキハ之ヲ競賣ニ付スルヤ又ハ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價スルヤハ其有價證券カ取引所相場又ハ市相場アルモノナルト否トニ關係スルモノトス此場合ニ於テ執達吏ハ先ツ其日ノ相場ヲ確實ニ探知シ就中新聞紙ノ相場表ニ依リ又ハ此等ノ證券ヲ

取扱フ官廳若クハ其營業人ニ就キ探知ス可シ

有價證券ニシテ取引所相場又ハ市相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ賣却ス可シ

取引所相場又ハ市相場アルモノハ前條ノ規定ニ從ヒ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ス可シ此場合ニ於テハ其營業人ノ媒介ヲ求ムルヤ又自ラ其周旋ヲ爲スヤハ執達吏ノ見込ニ任ス其營業人ノ媒介ヲ求ムル場合ニ於テハ賣却ニ關スル調書ニ換ヘ其計算書ヲ執行記錄ニ添付ス可シ

何レノ場合ニ於テモ證券ハ代金支拂濟ニ非サレハ之ヲ引渡ス可カラス

賣却ヲ十分ニ施行完結スル爲メ執達吏ハ記名ノ有價證券ヲ買主ノ氏名ニ書換ヘ又無記名ノ證券ニシテ其流通ヲ止メタルトキハ直ナニ其流通回復ヲ爲ス職務アルモノトス（民事訴訟法第五百八十二條、第五百八十三條、執達吏規則第十三條）又執達吏ハ賣却前ニ氏名ノ書換又ハ流通ノ回復ニ付キ必要ノ陳述ヲ爲ス權利ヲ得ル爲メ債務名義ノ證及ヒ差押調書ヲ添ヘ執行裁判所ニ届出ツ可シ

無記名證券ノ流通回復ニ付テモ亦賣却前ニ

管轄官廳ニ届置キ又記名證券ノ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲スコトハ賣却後其證券ヲ出シタル會社等ニ至リ之ヲ施行ス可シ

第七十六條　手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ヨリ生スル第三債務者ニ對スル債務者ノ債權ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ得ル場合ニ於テハ執達吏ハ本則第八十三條、第八十四條ノ規定ニ於ケル職務ヨリモ一層深ク注意ヲ加ヘ執務ス可キモノトス

債務者カ此債權ヲ以テ自己ノ義務ヲ履行セントスルトキハ其裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ヲ執達吏ニ示ス可シ此債權ノ差押ヲ爲サントスルトキハ普通債權ノ如ク執行裁判所ノ決定ヲ要セス有體動產ニ於ケルカ如ク執達吏其證券ヲ占有シテ差押ヲ爲ス可キモノトス（民事訴訟法第六百三條）

此債權ノ額及ヒ其時期ノ不明瞭ナルトキハ執達吏ハ其債權ノ差押ヲ爲スニ當リ債務者ヨリ之ヲ明示シタルトキニ非サレハ差押ヲ施行セサルヲ通例トス若シ此明示ナキモ他ニ差押フ可キ物ナキ場合若クハ其差押フ可キ物不十分ナル場合ニ限リ此債權ヲ差押フ可シ

此債權ヲ差押ヘタルトキハ他ノ差押ト同一

ニ債權者及ヒ債務者ニ之ヲ通知ス可シ但債權者ニハ差押調書ノ謄本ニ認證ヲ附シテ之ヲ通知ス可キモノトス

占有シタル證券ハ本則第六十四條ニ規定シタル方法ニ依リ之ヲ保存ス可シ

右ノ場合ニ於ケル差押調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一　差押ヘタル債權ノ明示即チ其品名、金額、期限及ヒ此證券ニ關係アル債權者、債務者ノ氏名

第二　證券ヲ正當ニ占有シタルコト

右ノ外尚執行上ノ處分ハ普通ノ債權ニ係ルモノ（本則第八十三條）ト同一ニ債權者ノ申立ニ依リ執行裁判所之ヲ施行ス

差押ヘタル債權ヲ債權者ニ移付シ又ハ債權者ノ委任スル執達吏ニ引渡スコトヲ命スル旨ノ執行裁判所ノ決定ノ正本ヲ債權者ヨリ提出シタルトキハ執達吏ハ差押ヘタル債權ニ關係ノ證書類ヲ債權者ニ引渡ス可シ

債權者ニ證書類ヲ引渡シタルトキハ執達吏ハ其受取證ヲ取リ執行記錄ニ添附ス可シ

債權ノ差押ヲ解キタルトキハ此債權ニ關係ノ證書類ヲ本則第八十二條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ返付ス可シ

第七十七條　土地ヨリ離レサル果實及ヒ蠶ノ差押賣却ハ有體動產ニ關スル本則ノ規定及ヒ民事訴訟法第五百六十八條及ヒ第五百八十四條ノ規定ヲ對照シテ其處分ヲ爲ス可シ」

執達吏ハ果實及ヒ蠶ヲ差押ヘタルコト且之ヲ占有シタルコトヲ適宜ノ方法ヲ以テ差押標示ヲ爲シテ之ニ明記シ且之ニ記名シテ差押ノ告示ヲ爲シ又ハ此他適宜ノ方法ニ依リ各人ニ差押ノ旨ヲ知ラシム可シ又已ムヲ得サル場合ニ於テ管理人ヲ要スルトキハ執達吏之ヲ任命ス可シ

執達吏ハ收穫時期ノ到來スルコトニ注意ズ

可シ又管理人ヲ任命シタルトキハ競賣期日ヲ定メテ之ヲ公告シ且果實ノ成熟ニ過キ又ハ蠶繭ノ收穫時期ヲ過キ損害ヲ生セサル爲メ管理人ヲシテ適當ノ時期ニ於テ報告ヲ爲ス可キ義務ヲ負ハシム可シ

此場合ニ於ケル差押調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ揭ク可シ

第一　果實ニ付テハ地所ノ位置、面積ノ概略、果實ノ種類

第二　蠶ニ付テハ其所在ノ場所、數量ノ概略、繭ノ種類（春繭、夏繭ノ類）

第三　差押ヘタル果實又ハ蠶繭ニ付キ賣

得金ノ見積リ額

第四　差押ヲ爲シタルコトヲ告知スル爲メ設ケタル方法若シ管理人ヲ任命シタルトキハ其理由

第五　收穫ノ時期

競賣ハ收穫ノ時期ニ至リタルトキニ限リ之ヲ許ス

競賣ヲ收穫前ニ施行ス可キヤ又ハ之ヲ收穫後ニ施行ス可キヤ全部一時ニ之ヲ競賣ニ付ス可キヤ又ハ一分ツヽ競賣ニ付ス可キヤハ執達吏時宜ニ依リ之ヲ定ム可キモノトス

執達吏收穫後ニ競賣ヲ爲ストキハ收穫ノ爲メ信用ス可キ人ヲ雇ヒ收穫物ヲ安全ニ運搬セシメ且競賣期日マテ之ヲ保存スルノ處分ヲ爲ス可シ又執達吏必要ト認ムルトキハ收穫物ノ數量ヲ保全スル爲メ收穫ノ際監督ヲ爲ス可シ

收穫ノ爲メ要スル費用ハ成ル可ク前以テ之ヲ定ム可シ

收穫前ニ競賣ヲ爲ストキハ其地所又ハ其場所ニ於テ之ヲ施行スルヲ通例トス

第七十八條　第一債權者ノ爲メ既ニ差押ヘタル物ニ付キ第二債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏ハ更ニ之ヲ差押フルコトヲ得ス但假

差押ニ係ル物ニ付テハ此限ニ在ラス

第二債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏(第一債權者ノ委任ヲ受ケタル執達吏)ニ差押調書ノ閲覽ヲ求メ其債務者ノ有體動産中ニ未タ差押ヘサル物アルヤ否ヤヲ照査シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘテ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ其差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ併セテ競賣ニ付スヘキコトヲ求ム可シ若シ差押フ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作リ右執達吏ニ之ヲ交付シ且第二債權者ノ爲メ配當要求ヲ爲スヘシ但照査調書ニハ差押調書ト債務者ノ有體動産ト相對照シテ差押フ可キ物アラサル旨ヲ記載スルヲ以テ足ル

前項ノ求アリタルトキハ第一債權者ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ別ニ委任ヲ要セスシテ第二債權者ノ委任ヲ受ケタルモノト看做シテ處分ス可シ(民事訴訟法第五百八十六條)

右ノ場合ニ於テ若シ第一債權者ノ爲メニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執達吏ハ第二債權者ヲ以テ差押債權者ト看做シ爾後ノ手續ヲ續行ス可シ(民事訴訟法第五百八十七條)

第七十九條　前條第三項ノ場合（民事訴訟法第五百八十六條第二項即チ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル場合）及ヒ民法ニ從ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル場合（民事訴訟法第五百八十九條及ヒ第五百九十條）ニ於テハ執達吏ハ配當要求ノアリタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

右ノ場合ニ於テ債務者三日ノ期間内ニ執行力アル正本ニ因ラサル配當要求ヲ認諾セサル旨ヲ申立ツルトキハ執達吏ハ直チニ其配當ヲ要求スル債權者ニ之ヲ通知ス可シ（民事訴訟法第五百九十一條）

第八十條　執達吏ハ豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍事用廳舍又ハ軍艦ニ於テ差押ヲ施行ス可キ權ヲ有セス此場合ニ於テハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ハ執行裁判所ノ囑託ニ因リ差押ヲ爲ス然レトモ其後ノ手續ハ執達吏ニ屬スルモノトス（民事訴訟法第五百五十六條）

執達吏ハ右手續施行ノ爲メ債務名義ノ證ヲ提出セシメ且執行裁判所ノ命ニ依リ軍事、裁判所又ハ所屬ノ長官若クハ隊長ノ屬スル官廳ヨリ差押物引渡ノ通知アルヲ待ツカ又ハ

該廳ニ債權者ノ委任ヲ示シテ其引渡ヲ求ム可シ

執達吏ハ差押物ノ引渡ヲ受クル際其差押物ト其差押ノ調書ト比較シ不足或ハ毀損シタル物アレハ之ヲ記載シ直ナニ競賣期日ヲ定ム可シ

第八十一條　執達吏ハ強制執行ニ依リテ得タル金錢ニ關シ計算ヲ立テ各債權者ニ屬ス可キ金額及ヒ強制執行ノ費用ヲ記錄ニ明記シ其剩餘額アレハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

執達吏ハ強制執行ニ依リテ得タル金額中ヨリ強制執行ノ費用（執達吏手數料規則及ヒ民事訴訟費用法第十六條）ヲ扣除シ其餘金ヲ以テ各債權者ニ屬ス可キ金額ヲ即時ニ支拂ヒ尙ホ剩餘アレハ之ヲ債務者ニ還付ス可シ（本則第四十三條）郵便爲替ヲ以テ右金錢ヲ送付シタルトキハ郵便局ノ受取證其他ノ方法ヲ以テ送付シタルトキハ受取人ノ受取證ヲ記錄ニ添附シテ保存ス可シ

強制執行ノ費用中證人、鑑定人、管理人及ヒ保存人ニ支拂フ可キ費用等ニ付テモ亦同シ

執達吏ハ右ノ手續ヲ終了シタル後ハ民事訴訟法第五百三十五條第一項ノ規定ニ從ヒ債務者義務ヲ完全ニ盡シタル場合ニ於テハ執

行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ債務者ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ記載シテ之ヲ債權者ニ還付シ且受取ノ證ヲ債務者ニ交付ス可シ何レノ場合ニ於テモ計算書ヲ債務者ニ交付セサル可カラス

強制執行ニ依リ得タル金額（賣得金及ヒ差押金錢ヲ總括ス）ヲ以テ其配當ニ與カル各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ先ツ其各債權者ヲシテ配當ノ協議ヲ爲サシム可シ協議調ヒタルトキハ其協議ニ任セ且前數項ノ規定ヲ準用シテ手續ヲ完結シ若シ協議調ハサルトキハ供託規則ニ從ヒ其金額ヲ供託ス可シ此場合ニ於テ執達吏ハ其事情ノ届書（各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサルコト及ヒ協議調ハサルコトヲ包含ス）ヲ作リ執行手續ニ關スル一切ノ書類ヲ添附シテ執行裁判所ニ届出ツ可シ（民事訴訟法第五百九十三條）

第八十二條　執達吏ハ強制執行完結後ニ至リ賣却セサリシ差押物又ハ強制執行中裁判所ノ裁判若クハ債權者ノ免除ニ依リ差押ヲ解除シタル物ヲ即時ニ債務者又ハ領收權利者ニ交付ス可シ

右交付シタル物ニ付テハ執達吏ハ債務者又ハ領收權利者ヲシテ受取證ヲ出サシメ之ヲ記錄ニ添附シテ保存ス可シ

第三款　債權ニ對スル强制執行

第八十三條　第三債務者ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若ハ給付ヲ目的トスルモノヽ强制執行ハ執達吏ノ專行ニ任セス執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲スモノトス（民事訴訟法第五百九十四條）

金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權者ヲシテ民事訴訟法第五百九十八條）

カラサルコトヲ命令スルモノトス（民事訴訟法第五百九十八條）

又差押ヘタル債權ニ付キ債權者カ代位ノ手續ヲ要セスシテ直チニ之ヲ取立ツルヤ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ之ヲ轉付スルヤハ債權者ノ選擇ニ任セ其申請ニ因リテ執行裁判所ノ命令ヲ付與ス（民事訴訟法第六百條）

右命令ノ送達ハ總テ執達吏ノ職務ニ屬シ且普通ノ規定ニ從フト雖モ特ニ次條ノ規定ニ注意ス可シ

第八十四條　債權者第三債務者ヲシテ民事訴

訟法第六百九條ニ掲ケタル陳述ヲ爲サシメンコトヲ申立テタルトキ裁判所カ差押命令ヲ第三債務者ニ送達セシムル場合ニ於テハ郵便ニ依ル送達方法ヲ用ヰス普通ノ送達即チ執達吏ノ爲ス送達方法ニ依ルモノトス

執達吏ハ右命令ヲ速ニ第三債務者ニ送達シ且其送達證書ニ送達時刻ヲ記入ス可シ又執達吏ハ右送達ニ際シ第三債務者ヲシテ民事訴訟法第六百九條ニ掲ケタル陳述ヲ送達證書ニ記入セシム可ク又ハ七日ノ期間內ニ通知セシムルコトノ催告ヲ爲ス可シ第三債務者直チニ右陳述ヲ爲サスシテ送達後ニ之ヲ

爲ストキハ執達吏ハ速カニ之ヲ裁判所ニ差出ス可シ

第八十五條　債務者ハ其轉付シタル債權ニ關スル所持ノ證書ヲ債權者ニ引渡ス義務アリトス（民事訴訟法第六百六條）

執達吏ハ債權者ノ求ニ因リ執行力アル債務名義ノ證及轉付ノ命令ニ基ツキ强制執行ノ方法ヲ以テ前項ノ證書ヲ債務者ヨリ引渡サシム可シ但シ轉付ノ命令ハ遲クトモ此强制執行ノ開始前ニ債務者ニ送達スルコトヲ要ス

若シ其引渡サシム可キ證書カ轉付ノ命令中ニ

十分明記シアラスシテ債務者ニ就キ之ヲ穿鑿シ得サルトキハ執達吏ハ其旨ヲ債權者ニ通知ス可シ此場合ニ於テハ債權者ハ命令ノ補充ヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

執達吏右强制執行ヲ實施スルニ付テハ有體動產引渡ニ關スル手續ニ付テノ規定ニ從フ可シ

第四款　不動產及船舶ニ對スル强制執行

第八十六條　不動產ノ競賣ハ執行裁判所ノ命ニ依リ裁判所內又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏之ヲ爲スモノトス（民事訴訟法第六百五十九條）

右ノ場合ニ於テハ執達吏ハ民事訴訟法第六百六十二條乃至第六百六十九條ノ規定ニ從ヒ競賣ヲ取扱フ可シ就中競賣ニ際シ利害關係人（民事訴訟法第六百四十八條）カ或ル競買人ニ保證ヲ立テシメンコトヲ申立ツルトキハ其競買人ノ申出テタル價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ競買人ヨリ現金又ハ有價證券ヲ以テ執達吏ニ預ケタル後ニ非サレハ其競買ヲ許ス可カラス（民事訴訟法第六百六十四條）

此他性質ニ於テ許ス限リハ動產競賣ノ手續ヲモ準用ス可シ

執達吏同一ノ債權者ノ爲メ動産競賣ト不動産競賣トヲ同時ニ爲ス可キ場合ニ於テ動産ノミヲ競賣シテ債權者ノ請求ヲ滿足セシメ且强制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キ見込ナルトキハ先ツ動産ノ競賣ヲ爲ス可キコトヲ裁判所ニ申立テ其指揮ヲ受ク可シ

第八十七條　競賣期日ニ於テ許ス可キ競賣價額ノ申出ナキトキ(民事訴訟法第六百五十五條ノ規定ニ於ケル最低競賣價額マテ競買人ナキトキハ)其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ(民事訴訟法第六百七十條)

競落ヲ許ス決定アリタル後債務者カ不動産ノ引渡ヲ拒ム場合ニ於テ裁判所ノ命アルトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ(已ムヲ得サル場合ニ於テハ威力ヲ用フ)其不動産ヲ管理人ニ引渡ス可キモノトス(民事訴訟法第六百八十七條)

再競賣ニ付テハ民事訴訟法第六百八十八條ノ規定ニ從フ可シ

執達吏競賣ヲ終リタルトキハ其調書及競買保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノ其他關係書類等ヲ悉皆取纏メ三日内ニ裁判所書記ニ渡ス可シ

第八十八條　民事訴訟法第七百二條ノ規定ニ

從ヒ裁判所ヨリ不動産ノ入札拂ヲ命セラレタルトキハ執達吏ハ同法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ從ヒ入札拂ヲ取扱フ可シ」

此場合ニ於テモ亦前二條ノ規定ヲ準用ス可シ

第八十九條　民事訴訟法第七百十七條以下ノ規定ニ從ヒ裁判所ヨリ船舶ノ競賣若ハ入札拂ヲ命セラレタルトキハ執達吏ハ不動産ノ競賣若ハ入札拂ニ關スル前三條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ取扱フ可キモノトス

第五款　金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ强制執行

第九十條　特定動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡サシム可キ强制執行ハ執達吏其執行力アル債務名義中ニ包含シタル物ヲ債務者ニ就キ索出シテ之ヲ取上ケ債權者ニ引渡スヲ以テ之ヲ爲スモノトス（民事訴訟法第七百三十條）

右動産ノ引渡ハ之ヲ取上ケタル後速カニ行フコトヲ要ス若シ直チニ之ヲ引渡スコト能ハサルトキハ債權者ヨリ差圖アルマテ之ヲ保存ス可シ其保存ノ手續ハ本則第六十二條乃至第六十四條ニ於ケル差押物ニ關スル規定ニ從フ可シ

右執行ニ付キ作ルル可キ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一　債務者ヨリ取上ケタル特定動産又ハ代替物ノ箇數、度量又有價證券ニ係ルトキハ其券面額、番號、日附

第二　物ヲ債權者又ハ其代理人ニ引渡シ若クハ輸送シタル旨又未タ之ヲ爲サヽルトキハ其理由及ヒ其保存ノ方法

取上ケタル物ヲ債權者ニ引渡シタルトキハ執達吏ハ其受取證ヲ取リ置ク可シ

第九十一條　不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡サシム可キ强制執行ハ執達吏債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシメテ之ヲ爲スモノトス（民事訴訟法第七百三十一條）

此執行行爲ニ付テハ債權者又ハ其代理人ノ立會ヲ必要ト爲スニ依リ執達吏ハ執行ノ際之ヲ出頭セシメ且必要ナル事項ニ付キ豫メ債權者ト協議シ其意ヲ承ケテ之ヲ處分シ無益ノ日時ヲ費サヽルコトニ注意ス可シ

判決中ニ附屬物及ヒ器具等ヲモ包含シアルトキハ執達吏ハ之ヲ併セテ債權者ニ引渡ス可シ

執達吏ハ住家明渡ノ際債務者ノ動産類即チ

強制執行ノ目的物ニ非サル物ハ之ヲ取除キ民事訴訟法第七百三十一條ノ規定ニ從ヒ之ヲ取扱フ可シ

執達吏ハ其保存ス可キ動産ニ付テハ差押物ニ於ケルト同一ニ本則第六十二條乃至第六十四條ノ手續ニ從ヒ之ヲ處分ス可シ

保存シタル物ヲ債務者ニ返還シタルトキハ執達吏ハ其受取證ヲ取リ置ク可シ

債務者右ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ其事情ヲ具シテ執行裁判所ノ許可ヲ得差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シタル上其代金ヲ供託ス可シ

右執行ニ付キ作ル可キ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ（民事訴訟法第五百四十條）

第一　債權者又ハ其代理人ノ出頭シタル旨

第二　引渡又ハ明渡シタル物及ヒ其場所ニ現在スル附屬物、器具ノ明細

第三　債務者ハ其物ノ占有ヲ解キ債權者又ハ其代理人之ヲ取得シタル旨

第四　債務者ノ動產ヲ保存シタルトキハ其理由、種類并ニ其處分方法

第六款　債務者ノ抵抗除去ニ關スル强制執行

第九十二條　債務名義ノ執行ニ當リ其行爲ヲ耐忍ス可キ義務アル債務者ノ之ニ抵抗スルトキハ債權者ハ之ヲ除去スル爲メ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

立會ヒタル執達吏ハ債權者ノ提出ス可キ債務名義ノ證ニ依リ債權者又ハ其代理人カ如何ナル行爲ヲ爲スノ權利アルヤ及ヒ債務者カ如何ナル程度マテ耐忍ス可キ義務アルヤヲ明細ニ調査ス可シ債權者ノ申立正當ナルトキハ執達吏ハ債務者ヲシテ其義務ヲ盡サシメンコトヲ務メ又必要ナル場合ニ於テハ

民事訴訟法第五百三十六條、第五百三十七條

ノ規定ニ從ヒ威力ヲ用ユルコトヲ得ヘシ然レトモ成ル可ク此强制手段ヲ用ユルコトヲ愼ミ偏ニ抵抗除去ニ必要ナル程度ヲ越ヘサルコトニ注意ス可シ

右執行ニ關シ作ル可キ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ揭ク可シ

第一　債務者ノ耐忍シタル行爲

第二　用ヰタル强制手段

第七款　證人勾引ニ關スル執行

第九十三條　證人ヲシテ强テ證言ヲ爲サシムル爲メ勾引スルトキ（民事訴訟法第二百九十四條）ハ執達吏ハ其勾引狀ヲ證人ニ示シタル

後之ヲ引致ス可シ

證人疾病ニ罹リ之ヲ勾引スレハ其生命ヲ危險ナラシムルコトヲ醫師ノ診斷書又ハ實驗ニ依リ認知スルトキハ執達吏ハ其勾引ヲ停止ス可シ此場合ニ於テハ其停止ノ理由ヲ執行調書ニ記載シ其旨ヲ受訴裁判所ニ届出ツ可シ

第八欵　假差押命令ノ執行

第九十四條　假差押ノ命令ノ執行（民事訴訟法第七百三十七條以下）ヲ爲スニ當リ執達吏ノ施行ス可キ手續ハ（民事訴訟法第七百四十九條、第七百五十條ノ規定ハ例外トス）通常ノ强制執行手續ノ規定ニ從フ

執達吏ハ民事訴訟法第七百四十九條ニ規定シタル命令執行ノ期間十四日ヲ既ニ經過シタルモノナルヤ否ヤヲ自ラ調査ス可シ（民事訴訟法第百六十五條乃至第百六十七條）

假差押ノ命令ニ差押フ可キ物ヲ明記セサルトキ（例ヘハ命令ニ汎然債務者ノ財産假差押ヲ命スルトノミ記載シタルトキ）ハ債權者ノ請求并ニ其利息及ヒ費用ヲ滿足セシムルニ足ル可キ丈ケノ物ヲ差押フ可キモノトス

執達吏ハ假差押ノ命令ニ基キ差押物ヲ領收シ之ヲ競賣ニ付スルコトナク事件ノ完結ニ

至ルマテ貯藏保存スルノ義務アリ然レトモ差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ要スル可キコトノ明了ナルトキハ之ヲ競賣ニ付セラレンコトヲ執行裁判所ニ申出テ且債權者ニ之ヲ告知シテ便宜ノ處分ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第七百五十條末項）

第九款　假處分命令ノ執行

第九十五條　假處分ノ命令ノ執行ハ金額ヲ領收スル目的ニ非ラスシテ物ノ引渡、行爲ノ作爲若クハ不行爲ニ關スル處分ヲ爲シ將來ノ强制執行ヲ保全セシムルニ在リ（民事訴訟法第七百五十五條以下）

此場合ニ於テモ亦執達吏ハ前條ノ規定ヲ準用シテ右處分ノ執行手續ヲ爲ス可キモノトス

第十款　裁判上ノ供託

第九十六條　執達吏法律ノ規定ニ依リ供託ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ差押物又ハ賣得金ヲ債權者ニ渡サヽルモノトス

供託ヲ爲ス可キ場合ハ左ノ如シ

第一　保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シ强制執行ヲ免カルヽコトヲ債務者ニ許シタルトキ（民事訴訟法第五百條第五百二十二

條、第五百四十七條、第五百七十四條、第七百四十七條及ヒ第七百五十九條）

第二　賣得金ノ裁判所ニ於テ配當スヘキトキ（民事訴訟法第五百九十三條、第六百二十一條、第六百二十六條及ヒ本則第八十一條）

第三　裁判所ヨリ供託ヲ命シタルトキ

供託ヲ必要ナリト認ムルトキハ執達吏ハ供託規則ニ從ヒ直チニ所屬ノ供託所ニ就テ之ヲ行フ可シ

第二號ノ場合ニ於テハ賣得金配當ノ爲メ事情ヲ管轄執行裁判所ニ届出ツ可レ（民事訴訟法第五百九十三條、第六百二十一條）此事情届書ニハ執行ニ關スル債務名義ノ證差押調書、供託ニ關スル證書并ニ其他執行手續ニ關スル書類就中差押及ヒ轉付ノ命令ヲ添付ス可シ

第三節　刑事事件ノ執行其他ノ事務ニ關スル執行

第一款　罰金、科料及ヒ過料ノ執行

第九十七條　判決、決定及ヒ命令ヲ以テ科シタル罰金、科料及ヒ過料ノ徵收ハ民事訴訟法中金錢ノ債權ニ關スル强制執行ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス可シ

右ノ執行ハ裁判所又ハ檢事ノ命令ニ依リ執達吏之ヲ爲ス可キモノニシテ（刑事訴訟法第三百二十條及ヒ執達吏規則第三條）此命令ハ執行力アル債務名義ニ代用スルモノトス

此執行ニ關シテハ執達吏ノ爲ス可キ手續ハ民事訴訟法ノ强制執行ニ於ケル規定ニ同シ但執行ヲ始ムル前ニ執行文ヲ送達スルコトヲ要セス（本則第四十九條第四號）

執達吏金額ヲ徵收シタルトキハ其受取證ヲ納人ニ交付ス可シ其金額ヲ國庫ニ納入スル手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル

執達吏ハ右金額ヲ完納シタルトキ又ハ無資力者ニシテ之ヲ完納スルコト能ハサルトキ又ハ犯人死亡シタルトキ（刑法附則第二十條）ハ何レノ場合ニ於テモ其旨ヲ裁判所又ハ檢事局ニ報告シ且其犯人管轄ノ區裁判所ニモ之ヲ届出ツ可シ

第二款　賠償ノ執行

第九十八條　刑事訴訟ノ裁判ニ於テ犯人ニ負擔セシメタル損害賠償（刑法附則第五十九條）ハ民事訴訟法中金錢ノ債權ニ付テノ强制執行ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス可シ

右執行ハ裁判所書記ノ付與スル執行力アル判決ノ正本ニ依リテ之ヲ爲スモノトス

賠償ヲ求ムル者ハ其執行ヲ直接ニ執達吏ニ委任シ又ハ裁判所書記ヲ經テ之ヲ執達吏ニ委任スルコトヲ得

第三款　没收物、没收金及ヒ追徵金ノ徵收

第九十九條　刑事訴訟ニ於テ物品、金錢ヲ没收シ又ハ金錢ヲ追徵ス可キコトヲ命シタルトキ其執行ハ民事訴訟法中特定動産ニ付テノ强制執行及ヒ金錢ノ債權ニ付テノ强制執行ノ規定ニ從ヒ之ヲ施行ス可シ（刑事訴訟法第三百二十條及ヒ執達吏規則第三條）

右執行ノ手續ハ本則第九十七條ノ規定ヲ準用ス可シ

第四款　裁判費用ノ徵收

第百條　刑事ニ關スル費用（刑事訴訟法第百三十四條、第百四十一條、第三百二十條及ヒ刑法附則第四十八條乃至第五十三條）及ヒ民事ニ關スル費用（民事訴訟法第九十九條）ハ民事訴訟法中金錢ノ債權ニ付テノ强制執行ノ規定ニ從ヒ之ヲ負擔ス可キ義務アルモノヨリ徵收ス可シ（刑事訴訟法第百三十四條、第百四十一條、第三百二十條及ヒ刑法附則第四十八條乃至第五十三條）但私訴ニ關スル訴訟費用ハ民事訴訟法ニ於ケル訴訟費用ノ規定ニ從フ

（刑事訴訟法第三百二十三條）

右執行手續ハ本則第九十七條ノ規定ヲ準用スヽ可シ

第四節　行政裁判所其他特別裁判所ヨリノ囑託ニ依ル强制執行

第百一條　行政裁判所ヨリ强制執行ノ囑託アル場合ニ於テ（行政裁判法第二十一條）執達吏ノ職務ニ屬スルモノニシテ且囑託ヲ受ケタル裁判所ヨリノ命アルトキハ執達吏ハ本則第二節ノ規定ヲ準用シテ之ヲ施行ス可シ

執達吏ハ强制執行ヲ完結シタルトキハ執行ノ成績ヲ其裁判所ニ届出ツ可キモノトス此場合ニ於テハ執達吏手數料規則ニ依リ手數料及ヒ立替金ヲ受ク

第百二條　陸海軍軍法會議ヨリ私訴裁判ノ强制執行ノ囑託アル場合ニ於テ執達吏ノ職務ニ屬ス可キモノニシテ且其囑託ヲ受ケタル裁判所ヨリノ命アルトキハ執達吏ハ陸海軍軍法會議私訴裁判强制執行法及ヒ前條ノ規定ニ從ヒ之ヲ施行ス可シ

右ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規程ヲ適用ス可シ

第五節　動産、不動産ノ任意競賣

第百三條　動産、不動産ノ任意競賣ハ關係人ノ

直接委任ニ因リ執達吏之ヲ施行スルモノトス（民法財産取得編第百四條乃至第百六條及ヒ執達吏規則第二條）

執達吏ハ任意競賣施行ノ職權ヲ濫用シテ自ラ任意競賣ノ委任ヲ求メ又ハ之ヲ勸誘スルヲ得ス且之カ爲メ他ノ本職ヲ懈怠ス可カラス

第百四條　委任者ハ競賣ノ條件即チ期日、場所及ヒ公告ノ方法（民事訴訟法第五百七十六條、第六百六十一條、第六百六十二條）ヲ適宜ニ定ムルコトヲ得

賣却ニ先チ物ノ價額ヲ評價セシムルコト及ヒ其賣得金ヲ執達吏若クハ其他ノ者ヲシテ取立テシムルコトハ委任者ノ指定ニ任ス可シ又執達吏ハ自ラ右取立ノ手數料ヲ豫約スルヲ得ス

第百五條　執達吏ハ競賣物ノ度量、箇數等ヲ成ル可ク詳細ニ號ヲ逐ヒ記載シテ其表ヲ作リ委任者ニ之ヲ示シ其承諾及ヒ署名捺印ヲ請フ可シ若シ委任者ヨリ該表ヲ作リ交付シタルトキハ執達吏ハ其當否ヲ調査シ之ニ認證ス可シ

競賣物委任者ノ手中ニ存在シ其委任者ニ於テ製表ヲ望マサルトキハ執達吏ハ之ヲ作ル

コトヲ要セス

執達吏競賣期日迄テ競賣物ノ保存ヲ委任セラレタルトキハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ケタル調書ヲ作ル可シ

第一　物ノ明記又ハ特別ニ製表シタルコトノ有無ノ開示

第二　其物ヲ現ニ執達吏ニ交付シタルコトノ記載

價額ヲ評價シタル場合ニ於テハ表中各物ノ左側ニ其評價額ヲ記入ス可シ

第百六條　委任者ノ特別指定（本則第百四條）アラサル限リハ執達吏ハ民事訴訟法第五百七十三條乃至第五百七十七條及ヒ第五百八十四條並ニ本則第六十四條乃至第七十三條及ヒ第八十一條ノ規定ヲ準用シテ處分ヲ爲シ又執達吏ハ任意競賣ニ際シ其賣却ス可キ物ヲ自ラ買取リ又ハ親屬若クハ他人ニ依リテ之ヲ買取リ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ買取ルコトヲ得ス且其補助ノ爲メ立會ハシメタル者ニモ競買ニ干與セシムルコトヲ許サス

執達吏ハ競賣期日ヲ適當ノ時期ニ於テ委任者並ニ委任者ヨリ賣得金ノ取立若クハ立會ヲ委託セラレタル者ニ通知シ又競賣調書ノ謄本ヲ委任者ニ送付ス可シ

第六節　辨濟提供

第百七條　執達吏ハ債務者ヨリ辨濟ノ提供ヲ爲ス委任ヲ受ケタルトキハ民法財産編第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規定ニ從ヒ之ヲ取扱ヒ且辨濟提供規則ニ依リ調書ヲ作リ之ヲ保存ス可シ

若シ當事者其謄本ヲ求ムルトキハ執達吏之ヲ作リ認證シテ交付ス可シ

右手數料ハ辨濟提供規則及ヒ執達吏手數料規則ニ從ヒ之ヲ取立ルコトヲ得

第七節　破産財團ニ關スル競賣

第百八條　執達吏破産財團ノ動産、不動産ノ競賣ノ、委任ヲ受ケタルトキハ動産、不動産ノ競賣ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用シ且破産裁判所ノ指揮ヲ受ケ之ヲ競賣ス可シ（商法第千十八條）

右賣得金ノ取立及ヒ其供託ニ付テモ亦同シ

第八節　拒證書ノ作成

第百九條　執達吏ハ手形ニ關シ被拒者ヨリ拒證書作成ノ委任ヲ受ケタルトキハ商法第七百九十條乃至第七百九十八條ノ規定ニ從ヒ之ヲ作ル可シ（執達吏規則第二條）

右手數料ハ執達吏手數料規則第十六條ノ規定ニ從ヒ被拒者ヨリ之ヲ取立ツルコトヲ得

（商法第七百九十八條）

第九節　供託ニ付テノ認證

第百十條　金錢又ハ有價證券ヲ供託ノ爲メ供託所ヘ送付スル者ハ之ヲ送付シタルコトニ付キ認證ヲ執達吏ニ求ムルコトヲ得認證ノ求ヲ受ケタル執達吏ハ唯タ其金錢若シハ有價證券カ其書狀中又ハ封皮中ニアリトノ供託者ノ確言ノミヲ以テ足レリト爲ス可カラス必ス送付ノ實否及ヒ其數量ノ如何ヲ確知スルコトヲ要ス若シ此目的ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ其金額、有價證券ノ種類ヲ總テ取調ヘ之ヲ計算シ且供託者ノ面前ニ於テ送

狀ト比較シタル後之ヲ包裝シテ送付セシメ又ハ拂込マシム可シ

送付ニ關スル必要ナル手續ハ供託規則ニ從フ可シ

認證書ハ原本ニテ委託者ニ交付ス可キモノトス

第十節　手數料

第百十一條　執達吏ハ其職務執行ニ付キ作リタル證書ノ原本ニ手數料及ヒ立替金（執達吏手數料規則第二條乃至第十八條）ヲ計算シテ其額ヲ附記シ置キ後ニ作ル可キ書類ノ正本ニ記入スルノ用ニ供ス可シ又執務時間ニ應

シ其辨濟ヲ受ク可キ場合ニ於テ最短ノ時間ニ付キ定メタル手數料ヲ超過スルトキハ其執務時間ヲ附記ス可シ（執達吏手數料規則第二十三條）

右手數料及ヒ立替金ハ其各種類（例ヘハ書類送達ノ手數料、動産差押ノ手數料、動産若クハ不動産競賣ノ手數料、又ハ書記料、郵便料、電信料、公告料ノ立替金又ハ證人、鑑定人、管理人、保存人等ノ手當若クハ物ノ送致費用、物ノ保存費用、旅費ノ立替金ノ類）ヲ區別シテ之ヲ表示ス可シ且旅費ニ付テハ往復旅程ヲ總計シテ之ヲ掲ク可シ

計算書ニハ通常職務簿（執達吏ノ常ニ備置ク簿冊）ニ記シタル事件ノ番號ヲ附記ス可シ又證書ノ謄本ニハ手數料計算ノ謄本ヲ添附シ置ク可シ

手數料ヲ支拂フ可キ者其證書ノ原本謄本トモ所持セサルニ因リ特別ニ手數料ノ計算書ヲ作ル可キトキハ執達吏ハ該計算書ニ其事件及ヒ施行シタル執務ヲ簡短ニ掲ケ且手數料ノ多寡ニ關係アル場合ニ於テハ執務ニ係ル物及ヒ其日時、場所ヲモ掲ケ之ニ署名捺印ス可シ

第百十二條　執達吏ハ手數料及ヒ立替金ノ豫

納トシテ受取リタル金額及ヒ豫納金ノ殘額ノ返還ニ付テハ通常職務簿中右事件ニ關スル部ニ之ヲ記入スル可シ

第百十三條　執達吏ハ裁判所書記ヲ經タルト否トヲ問ハス其委任ヲ受ケタル職務施行ノ爲メ受ク可キ手數料及ヒ立替金ニ付キ委任事件終了後直チニ其計算ヲ通知シ委任者ヨリ之ヲ取立ツ可シ但債務者ニ對スル强制執行ニ付キ此債務者ヨリ取立テス又ハ强制執行ノ際同時ニ取立テサルトキニ限ル（民事訴訟法第五百五十四條執達吏手數料規則第二十條及ヒ本則第五十一條）

第百十四條　執達吏ハ執達吏手數料規則第二十一條ノ規定ニ從ヒ國庫ヨリノ支給ヲ受取ル爲メ過ル三ケ月間ノ立替金ヲ決算シ且職務簿ヲ區裁判所判事（監督判事ヲ包含ス）ニ差出ス可シ

右決算ノ方法ハ左ノ例ニ從フ

第一　三箇月分ノ職務簿中ニ各月ノ計算ヲ結ヒ尙ホ其三箇月ヲ併合シタル決算

第二　決算ノ日時及ヒ執達吏ノ署名捺印

毎年一月ヨリ三月マテノ決算ハ四月中ニ差出シ四月ヨリ六月マテノ決算ハ七月中ニ差出シ七月ヨリ九月マテノ決算ハ十月中ニ差

出シ十月ヨリ十二月マテノ決算ハ翌年一月中ニ差出スヲ可キモノトス

特別ノ場合ニ於テ決算ノ時事件未タ終了セサル爲メ立替金ヲ計算スルコト能ハサルモノハ後期ノ第一ノ月ノ職務簿ニ右事件ノ新番號ヲ附シ新舊兩簿ノ番號ヲ以テ前期ニ關スル立替金ヲ後期ニ移記シタルコトヲ標記スヲ可シ

區裁判所判事ハ執達吏ノ職務簿ニ必要ト思量スル注意書ヲ添附シ其支辨且其計算ヲ爲シ得ヘキ額ヲ確定スル爲メ之ヲ地方裁判所長ニ差出スヲ可シ

第百十五條　無資力者裁判所ヨリ訴訟上ノ救助ヲ受ケタルトキハ送達及ヒ執行行爲ヲ爲サシムル爲メ一時無報酬ニテ執達吏ノ附添ヲ求ムル權利ヲ有ス（民事訴訟法第九十七條第三號）此訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ各別ニ之ヲ付與シ第一審ニ於テハ强制執行ニ付テモ併セテ之ヲ付與スルモノトス（民事訴訟法第九十四條第一項）訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニハ必スシモ執達吏ノ附添フコトヲ要セス

訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ハ此救助ヲ受クル際送達ニ付テハ裁判所書記ニ申立テ一時

無報酬ニテ送達ヲ爲サシム可キコトヲ求メ
裁判所書記ハ之ヲ執達吏ニ通達シ又執行行
爲ニ付テハ裁判所書記ヲ經テ若クハ直接ニ
執達吏ニ對シ委任ヲ爲スコトヲ得
該區裁判所管轄内ニ職務ヲ奉スル執達吏ニ
シテ右ノ委任ヲ受ク可キ義務アル者ハ事務
分配（執達吏規則第七條）ニ依リ職務ヲ施行ス
可キ土地ニ從ヒ裁判所書記ヲ經タル委任ニ
應ス可キ執達吏ナリトス
執達吏ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニ對シ
其證明ノ爲メ裁判所ヨリ付與シタル裁判ノ
提出ヲ求ムルコトヲ得然レトモ裁判所書記

ヲ經タル委任又ハ辯護士ヨリ爲ス委任ニ付
テハ右救助ヲ受ケタルコトノ證ノミヲ以テ
足レリトス
訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ爲メ爲シタル
行爲ノ手數料及ヒ立替金ヲ訴訟費用負擔ノ
裁判ヲ受ケタル相手方ヨリ取立ツル方法ハ
民事訴訟法第九十九條ノ規定ニ從ヒ其强制
執行ノ費用ニ付テハ本則第五十一條ノ規定
ニ從フ可シ
訴訟費用負擔ノ裁判ヲ受ケタル相手方ヨリ
辨濟シ能ハサル執達吏ノ立替金ハ執達吏手
數料規則第二十二條ノ規定ニ依リ國庫ヨリ

之ヲ支辨ス此場合ニ於テハ執達吏ハ前條ノ規定ヲ準用シテ決算ヲ爲シ之ヲ區裁判所判事ニ差出スモノトス

第百十六條　執達吏ハ執達吏規則第十九條ノ規定ニ依リ一年間ニ收入スル手數料百八十圓ニ充タサルヲ以テ國庫ヨリ其不足額ノ支給ヲ受ケントスルトキハ第百十三條ノ規定ヲ準用シテ決算ヲ爲シ區裁判所判事ニ差出スヘキモノトス